

件名	令和2年度埼玉県教科用図書選定審議会の答申（第2次）について
提出理由	義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項及び同法施行令第8条の規定に基づき、埼玉県教科用図書選定審議会から答申があったので、別紙のとおり報告します。
概要	答申事項 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

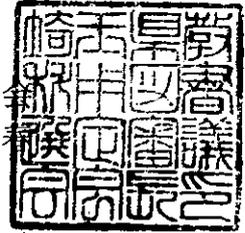
（義務教育指導課）



令和2年5月27日

埼玉県教育委員会 様

埼玉県教科用図書選定審議
会 長 小柳 光



教科用図書採択に関する答申（第2次）

令和2年4月9日開催の教育委員会で決定された諮問事項について、下記のとおり答申いたします。

【諮問事項】

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

記

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方のうち「参考資料」の作成については、別添「調査資料」を参考に、採択の対象となる教科用図書について、その特徴を示したものになるようにするとともに、公正中立を欠くことがないよう留意すること。

(別添)

令和3年度使用中学校用教科用図書
調査資料

埼玉県教科用図書選定審議会

教科書発行者一覧

発行者の 番号・略称	発行者
2 東 書	東京書籍株式会社
4 大日本	大日本図書株式会社
6 教 図	教育図書株式会社
9 開隆堂	開隆堂出版株式会社
11 学 図	学校図書株式会社
15 三省堂	株式会社三省堂
17 教 出	教育出版株式会社
27 教 芸	株式会社教育芸術社
38 光 村	光村図書出版株式会社
46 帝 国	株式会社帝国書院
50 大修館	株式会社大修館書店
61 啓林館	株式会社新興出版社啓林館
81 山 川	株式会社山川出版社
104 数 研	数研出版株式会社
116 日 文	日本文教出版株式会社
224 学 研	株式会社学研教育みらい
225 自由社	株式会社自由社
227 育鵬社	株式会社育鵬社
229 学び舎	株式会社学び舎
232 廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社
233 日 科	日本教科書株式会社

国語科（国語）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○社会生活に必要な国語の特質（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）を理解し適切に使うことができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、どのような工夫がされているか。 ○言語活動を通して、言語能力を育成するためにどのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する能力の向上を図る態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○自ら進んで読書をし、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料のレイアウトにどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○漢字・用語・記号などの使い方にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の言語能力の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教材末の「てびき」の中に「広がる言葉」を設定したり、資料の「言葉を広げよう」と関連付けたりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○巻末の「論理的な言葉の力」において、1年では情報の分類や比較、2年では情報の整理、3年では情報の多面的な捉え方を取り上げている。身近な例を題材とした教材を設定し、情報を活用する力を身に付ける工夫をしている。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で様々な古典作品を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞く」「話す」「話し合う」という言語活動について、各学年一つずつ教材を配置して言語活動の充実を図っている。また、「話す」「話し合う」の教材では、「学習の流れ」を示し、言語活動の見通しを示すようにしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付けて、多面的に思考できるように工夫している。「学びの扉」を設け、言葉を活用する力の育成に配慮している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「『言葉の力』一覧」として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で学習する言葉の力を3年間系統的に学べるように示している。 ○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、授業や日常生活での言葉の使い方や話の聞き方・伝え方を漫画等でまとめている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「読書案内」を配置している。「読書への招待」、資料編「本の世界を楽しもう」などで学習した教材と読み比べられる本を紹介している。 ○1年で図書館調べやポップ作り、2年でビブリオバトルやレポート、3年で読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、小学校や前学年の既習事項を領域ごとに掲載したりしている。 ○巻末に、論理的・文学的・対話的な言葉の力を高める「基礎編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載している。 ○Dマークを付した各教材では、ウェブサイト上で教科書と連動したデジタルコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1字で脚注に複数の読み方とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字について筆順や用例をまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、既習事項と当該学年の学習内容を巻頭で説明したりしている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の国語</h1>	15 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三省堂</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材末にある「学びの道しるべ」で「語彙を豊かに」を設定したり、資料で「辞典を活用する」などを掲載したりすることで、語彙の拡充を図っている。 ○情報について、自分の考えを深める単元「情報を関係づける」を設けている。また、資料編には、全学年で「情報を活用する」を設定し、情報探しの方法、引用と著作権について具体的に示している。 ○古典に親しませるために、見開き教材の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能に関する教材を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、各学年三つの教材で構成している。各学年ともグループでの話し合いから、学年に応じた活動ができるよう配慮し、言語活動の充実を図っている。また「書くこと」と「話すこと」を関連させる工夫をしている。 ○「読むこと」の文章と、同じ文種の文を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、「読み方を学ぼう」を設け、「読むこと」の学習内容について確認できるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「学びの道しるべ」を設け、学習の見通しを持たせている。また、巻末資料の「読み方を学ぼう（一覧）」により、一年間の振り返りができるようにしている。 ○各学年の巻末資料に、類義語や擬声語などテーマを設けた語彙の資料や、手紙の書き方・話し合いの仕方等を一覧にして掲載している。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「私の本棚」を配置している。読書単元「読書の広場」や資料「日本文学名作集」を設け、様々な本を紹介している。 ○1年でブッククラブ、2年でビブリオバトル、3年でブックトークに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「この教科書の使い方」において、「見通し」から「振り返り」までの学習の過程を示して説明している。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「資料編」を掲載し、国語の学習に役立つ用語を「学習用語辞典」でまとめている。 ○古典教材と「読書の広場」にQRコードがあり、それを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年の学習漢字の用例や筆順、同音異字などをまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、話し合い活動や説明文の基本が確認できるようになったりしている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">伝え合う言葉 中学国語</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」、各教材末にある「みちしるべ」の中の「この教材で学ぶ言葉」、巻末折込みの「理解に役立つ言葉」等で語彙の拡充を図っている。 ○巻末折込みの「表現に役立つ言葉」に情報の関係を整理して表現する時に役立つ文型等を掲載している。教材末の「学びナビ」で語彙と情報の扱い方を関連付けることで、情報の扱い方が身に付くように工夫している。 ○古典に親しませるために、写真等の資料で古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能の教材や古典文法を取り上げたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、1年は4つの教材、2・3年は五つの教材で構成している。様々な話し合いの手段を紹介し、言語活動の充実を図っている。また、話し方・聞き方を系統的に学び、振り返りができる工夫をしている。 ○「読むこと」の教材から学んだ表現や構成等を生かして実用的な文章を書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。また、文章を読む前に読むときの着目点を示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」に学習内容と身に付けたい力の一覧を掲載している。それをもとに各教材の「みちしるべ」と連動させ、学習の振り返りの視点を示している。 ○巻末資料では現代文学・古典文学の読書教材の他、授業や日常生活で文章を書くときの注意点や表現に役立つ言葉をまとめている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○單元ごとに「広がる本の世界」を配置している。「読書への招待」という教材を設定して、読書活動につながる本を紹介している。 ○1年で本の帯やポップ作り、2年で読書レポート、3年でビブリオバトルや読書記録に取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「言葉の地図」において、1年間で学ぶ内容と身に付けたい言葉の力をSDGsの視点との関わりが分かるように示している。 ○巻末に、言葉と文法についてまとめられた「解説編」と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる「言葉の自習室」を掲載している。 ○まなびリンクマークのある教材では、学習時に参照できる資料をウェブサイトで見覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を脚注では1字で示し、各教材末に用例とともに示している。また、巻末資料では当該学年以外に小学6年の学習漢字の筆順と用例をまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書では、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、各教材の読み方を小学校での既習事項を踏まえて解説したりしている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">国語</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年は「言葉を集めよう」、2年は「言葉を比べよう」、3年は「言葉を選ぼう」という教材を設定し、巻末資料に「語彙を豊かに」を掲載して語彙の拡充を図っている。 ○情報について、「情報整理のレッスン」や「思考のレッスン」を設けて、情報の扱い方を示している。情報に関する教材をまとめて示す単元「情報社会を生きる」を各学年に設定し、情報を活用する力を高める工夫をしている。 ○古典に親しませるように、QRコードで朗読音声を提示して古文を理解させるための工夫をしたり、巻末資料で古典芸能や古典作品を取り上げたりしている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」について、1・3年は七つの教材、2年は六つの教材で構成している。音声言語の技能に関する教材と、それを活用した言語活動を行う教材を配置し、技能と活動を一体化させて学ばせようとしている。 ○「読むこと」の教材文から学んだ表現や構成等を生かして書く活動を行うなど、「読むこと」と「書くこと」を結び付け、多面的に思考できるように工夫している。「学習の窓」では、読むときの着目点を示している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の振り返りができるように、巻末資料に『学習の窓』一覧を設定し、各教材で学んだ基本的なことを示している。 ○巻末の資料「豊かに表現するために」では、日常生活に生きるテーマを設け、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の1年間で学習した言語活動を掲載している。 <p>＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材ごとに「広がる読書」を配置している。読書単元を二つ設定し、テーマ別に本を紹介したり、読み比べにつなげさせたりしている。 ○1年でポップ作りや読書記録、2年で本の紹介合戦やポスター作り、3年でブックトークや読書会などに取り組み、社会生活とつながる読書活動を取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、目次で各教材と領域の関係を色別の記号を付けて掲載したり、「思考の地図」で様々な思考の方法を具体的に紹介したりしている。 ○巻末に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の補充学習ができる資料や、学習の定着を図る課題を掲載している。 ○各教材の最後に記載されているQRコードを読み取ると教科書と連動したコンテンツを閲覧、利用することができるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字を1語単位で脚注に示し、各教材末に1字でまとめて示している。巻末資料では、当該学年の学習漢字の用例や筆順、四字熟語の用例などをまとめている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の教科書で、小学校で掲載されている作者の作品を扱ったり、言語活動の基本的な説明を最初にまとめたりしている。 	

国語科（国語） 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	342	357	354	340
	2年	346	357	366	336
	3年	345	341	354	324
2 巻末資料、付録等の総ページ数 ※ ページ番号のない部分も含む	1年	89	98	82	91
	2年	91	94	74	90
	3年	100	96	72	106
3 単元数	1年	7	9	9	8
	2年	7	9	9	8
	3年	7	8	8	8

○領域別教材数等について ※（ ）内は、資料編等の中の教材及び資料数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村	
1 教材数 ※ 扉の部分の詩も教材数に含む	1年	60(31)	62(18)	64(26)	80(24)	
	2年	59(36)	62(18)	63(24)	75(26)	
	3年	58(34)	58(18)	63(25)	69(28)	
2 領域別教材数	① 言葉の特徴や使い方に関する事項	1年	14(10)	19(8)	16(12)	25(12)
		2年	13(13)	18(8)	15(14)	24(12)
		3年	12(13)	16(8)	14(14)	22(11)
	② 情報の取り扱いに関する事項	1年	3(5)	1(4)	3(1)	7(0)
		2年	3(4)	1(4)	1(0)	7(0)
		3年	3(4)	1(4)	3(0)	5(1)
	③ 我が国の言語文化に関する事項	1年	14(3)	14(3)	19(9)	15(3)
		2年	12(5)	13(3)	18(7)	13(4)
		3年	14(7)	14(3)	17(8)	15(5)
	④ 話すこと・聞くこと	1年	4(3)	2(1)	5(1)	7(1)
		2年	4(4)	2(1)	6(1)	5(3)
		3年	4(3)	2(1)	7(2)	6(3)
	⑤ 書くこと	1年	7(6)	7(2)	7(3)	7(6)
		2年	7(6)	7(2)	8(2)	8(4)
		3年	5(4)	5(2)	4(1)	6(3)
	⑥ 読むこと	1年	18(4)	19(0)	14(0)	19(2)
		2年	20(4)	21(0)	15(0)	18(3)
		3年	20(3)	20(0)	18(0)	15(5)

○文種別教材数について ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 説明的文章 ※ 新聞記事等を含む	1年	3(1)	6(1)	9(0)	8(1)
	2年	5(1)	7(1)	8(0)	7(1)
	3年	4(1)	6(1)	11(1)	6(0)
2 物語・小説・随筆 ※ 古典は除く	1年	7(1)	6(3)	6(2)	10(1)
	2年	6(1)	4(3)	7(2)	9(1)
	3年	6(1)	5(3)	8(3)	8(4)
3 詩・短歌・俳句 ※ 巻頭詩等を含む	1年	11(0)	3(0)	7(1)	10(0)
	2年	12(0)	5(0)	7(1)	9(0)
	3年	13(0)	5(0)	10(1)	10(0)
4 古典 ※ 漢文・和歌・川柳等を含む	1年	4(1)	3(2)	3(2)	4(2)
	2年	3(3)	3(2)	3(2)	6(3)
	3年	3(3)	3(2)	3(1)	6(2)

○その他 ※（ ）内は、資料編等の中の教材数

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
学校図書館等の活用に関する教材数 (読書案内・読書活動を含む)	1年	8(2)	8(0)	11(4)	9(0)
	2年	8(2)	8(0)	11(4)	7(0)
	3年	8(2)	8(0)	10(4)	8(0)

国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書かせる学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○生徒が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <p>○毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜各教科や社会生活との関わり＞</p> <p>○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用語・記号などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、生徒の言語能力の発達の段階に応じて、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい書写</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。六つの過程を設け、単元を展開している。学習事項を確かめながら、知識や技能の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示している。硬筆で書き方を確認させてから、毛筆で課題に取り組むようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「見つけよう」で書体を比較させたり、その差異の理由を考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○単元の終末で、目的に応じた表現の仕方について学び、必要な情報を選択する等、段階的に演習を交えながら実生活に生かせるよう構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめる②「書写のかぎ」を見つける③書いて確かめる④生かして書く⑤振り返って話す⑥生活に広げる、という流れを説明している。 ○「振り返って話そう」では、学習の目標と連動した自己評価項目について、自分の言葉で説明することや、話し合い活動を通して振り返らせるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」という項目があり、硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」という項目で毛筆の点画の書き方へと生かす流れになっている。 ○単元の終末に「生かそう」という硬筆教材を設定しており、毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆にも生かせるよう関連を図っている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○各学年、「生活に広げよう」という項目を設け、本のポップ作り等、生活の様々な場面を通して社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「姿勢と筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表を取り上げている。また、随所にコラム「文字のいずみ」を設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○Dマークがある単元では、デジタルコンテンツが提供され、インターネットを使って毛筆教材文字の運筆動画等を見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項について文字色を変えて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「とん・すう・びたっ」と示し運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○学習事項を明確にし、単元を対話的に振り返る工夫をしている。 ○書写での学びを日常に生かす活用力を養う教材で、国語の学びを支え、他教科に学びが広がる構成となっている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。七つの過程を設け単元を展開している。具体的な字形例をもとに、書き方のポイント示している。 ○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示している。繰り返し硬筆で練習することにより学びの定着を図ろうとしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「見つけよう・考えよう」の問いによって、文字の書体を比較しながら書き方のポイントを見つける等、単元の課題を意識して学習を進められるよう構成している。 ○学年ごとに場面に応じた効果的な文字の選択等、学習したことを生かせるよう手順を示しながら表現活動ができるよう構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の流れ」で、①目標を確かめて学習の見通しをもつ②書き方のポイントをつかむ等、七つの過程を示し学習の仕組みを説明している。 ○「振り返ろう」では、学んだことを意識させながら書かせることで、学んだことが活用できているかを確認し、枠に直接記入させるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○基本点画を学ぶ際、毛筆で点画の特徴を学んだ後、「書いて身につけよう」という硬筆教材を設定し、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆で書いて習得したことを、他教科や日常生活でも硬筆で活用できるよう書き込みをさせ、学習の振り返りができるようになっている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○各学年、「やってみよう」の項目を設け、グループ新聞や地域の情報誌を作る等の取組を通して社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「学習のはじめに」では姿勢と筆記用具の持ち方を、写真やイラストを使って解説している。また、「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体を併記している。 ○巻末の「資料編」には「日常の書式」「文房四宝」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○教科書に掲載されている二次元コードを読み取ることで、硬筆・毛筆の姿勢や持ち方、筆の運び方などの内容が見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「始筆は強く。徐々に軽く。」等、文章で示し、運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○各教材を見開きで構成し、学習内容を一覧で示している。 ○学習したことを多様な場面で活用できる力を身に付ける教材で、文字文化の担い手として関わり方を考えられる構成になっている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」を示し、学習の見通しが持てるようにしている。五つの過程を設け単元を展開し、基礎・基本の定着を図ろうとしている。 ○毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを二色の薄墨で示している。硬筆で「試し書き」をしてから毛筆での書き方を学ばせるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の問いで、文字同士を比較したりその差異の理由を考えたりしながら学習のポイントを意識できるよう構成している。 ○「学習を生かして書く」では効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、学年ごとの学習内容を活かして表現活動に取り組むことができるよう題材を設定している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の進め方」で、①目標を確かめ、試し書きをする②課題を見つける③生かして書く④学習を振り返る⑤学習や日常生活に生かす、という流れを説明している。 ○「振り返ろう」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、「○=できた △=もう少し」から選び、枠に直接記入させるようにしている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「試し書き」で硬筆、「考えよう」で毛筆の課題を見つけ解決し、「生かそう」で再度硬筆の書き方を学習する流れになっている。 ○基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で確認できる「学習を生かして書く」という教材を設けている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校生活に生かして書く」等の項目で、レポートの書き方や書体の活用例等を紹介し、社会生活との関わりを示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説している。また、「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には、「書式の教室」「書き初め」「補充教材集」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○「まなびリンク」マークのある教材では、教科書に掲載されている毛筆教材について書いている様子を真上から撮影した動画を見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と教材文字、左ページに学習の流れを配している。学習の中心事項について、書き込み欄を設けて記し、学習課題に結びつくよう工夫している。筆圧を「1の力・2の力・3の力」と示し、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○系統的・段階的に見通せる構成、教材配列になっている。 ○主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動が盛り込まれ、生きてはたらく書写力、思考をはたらかせて書く国語の表現力を高める教材を掲載している。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学書写</h1>	38 光 村
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「目標」を示し、学習の見通しがもてるようにしている。三つの過程を設け単元を展開し、知識・技能の定着を図ろうとしている。 ○「書写ブック」を用いて硬筆課題に取り組み、毛筆での学習を定着させようとしている。毛筆では、筆使いや穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「考えよう」の問いにより、文字を観察・比較等することでその差異に気付き、自ら学習のポイントを見つけられるよう構成している。 ○単元の終末に「読みやすさ」を目指した効果的な文字の選択や相手の設定等、学習を生かした表現活動に取り組めるよう構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「学習の進め方」で、①課題について考える（学習の窓）②書き方を確かめ、毛筆で書く③学習したことを生かして書く（学習を振り返る）、という流れを説明している。 ○「学習を振り返る」では、学習の目標と連動した自己評価項目に照らし合わせながら、振り返らせるようにしている。 </p> <p> <毛筆と硬筆との関連> ○毛筆による基本点画を学習した後、学習したことを生かして硬筆で書く、「生かそう」という教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図っている。 ○毛筆の点画を書く際に学んだことを硬筆においても確かめられるよう「書写ブック」という硬筆教材を設けている。 </p> <p> <各教科や社会生活との関わり> ○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目で、手紙の書き方や壁新聞の作り方等の活用例を示し、社会生活との関わりを示している。 </p>	
資 料	<p> ○「姿勢、筆記用具の持ち方」について写真を使って解説している。また、「常用漢字表」「人名漢字表」は楷書体と行書体を併記している。 ○巻末には「日常に役立つ書式」「書き初め」等を取り上げている。また、随所にコラムを設け、写真図版と解説を交えて掲載している。 ○二次元コードで示された「教科書連動コンテンツ」では、用具の準備や運筆など学習に役立つ動画を見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字を配している。学習の中心事項を文章で記し、学習課題に結びつくよう工夫している。「始筆・送筆・終筆」を「トン・スー・トン」、筆圧を「1・2・3」と示し、運筆指導に対応している。 </p>	
総 括	<p> ○「学習の進め方」とともに、学習のポイントを「学習の窓」で示している。 ○「書写ブック」で、毛筆で学習したことを硬筆で繰り返し学習できるよう工夫している。書写で身に付けた力を、社会生活に生かせるような教材を掲載している。 </p>	

国語科（書写） 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	146	130	146	158
	2年				
	3年				
2 単元数	1年	3	3	3	2
	2年	3	3	3	2
	3年	1	1	3	1

○指導事項等の教材数について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村		
1 総教材数 ※本編中における主たる手本の数	1年	6	8	8	6		
	2年	6	5	6	5		
	3年	1	1	3	3		
2 手本の種別数	毛筆	漢字の楷書及び調和した仮名	1年	2	2	2	2
			2年	0	0	0	0
			3年	0	0	0	0
	硬筆	漢字の行書及び調和した仮名	1年	2	3	3	3
			2年	4	3	3	4
			3年	1	1	2	2
3 教材の扱い種別数	硬筆と毛筆との関連を図った教材数	1年	7	5	8	4	
		2年	5	4	4	4	
		3年	0	0	2	0	
目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書く教材数	1年	0	1	1	0		
	2年	3	2	1	1		
	3年	2	1	1	1		
社会生活に役立つ学習のための教材数	1年	3	1	2	1		
	2年	2	1	2	2		
	3年	1	1	1	1		

社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるように、どのような工夫が見られるか。 ○調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めるために、どのような工夫が見られるか。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の配置、数、種類などに、どのような工夫が見られるか。 ○事例の選択、資料の取り上げ方など、学習効果を高めるために、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 地理</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 2 東 書 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き 1 ページの内容が、「学習課題」から本文、整理・まとめ「チェック&トライ」の流れで構造化されている。また、単元の最後に「基礎・基本のまとめ」を設けており、基本的な知識の定着が図れるように工夫されている。 ○地図の見方や読み取り方、統計資料の作成等地理的技能を身に付けるために「スキル・アップ」が設定されており、学習に必要な技能の定着を図れるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入部に、その単元の学習過程で働かせる「見方・考え方」を明示したコーナーを設けており、学習を深める中で、言語活動の充実が図れるように工夫されている。 ○地理的事象や地域的特色について、多彩な思考ツールを用いて整理することにより、主体的に思考・判断した内容を適切に表現する力を身に付けられるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の諸地域の学習の導入や、「地域の在り方」の学習で「持続可能な開発目標」を取り上げ、現代的な諸課題を意識・理解しながら、学習をすすめられるように工夫されている。 ○「地域の在り方」の学習では、学習してきたことを振り返りながら、地域の課題や変容に注目したり、地域の将来像を提案したりする活動を充実させ、主体的に社会の形成に参画する資質や能力を養えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入部で、単元全体を貫く「探究課題」を立て、「まとめの活動」でその解決を補助する「探究のステップ」に取り組むことで、課題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」「まとめの活動」等を設け、対話的な活動を実践することにより深い学びができるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「地理にアクセス」や「インタビューコラム」「もっと地理」を掲載し、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる「Dマークコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての文字に、UDフォントを使用しており、ふりがなはゴシック体を使用している。難解な用語について、巻末に用語解説を設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。導入部、展開部、終結部の形で構造化されたレイアウトとなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1 単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決する流れが構造化されている。 ○他分野と関連している資料や特設ページには、「分野関連マーク」が設定され、三分野の系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 地理 地域にまなぶ</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1ページの始めに「学習課題」を掲げ、1単位時間の内容を整理しながらまとめる活動ができるように「確認コーナー」が設けられている。また、章・節の最後に「学習のまとめ」を設定し、基礎・基本の定着が図れるように工夫されている。 ○地図やグラフの扱い方等を学習する「地理の技」コーナーを設定し、個人やグループ学習を通じて、地理の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるように配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習の最後に「表現」のコーナーを設定し、振り返りの学習として自分の言葉でまとめたり、対話活動をしたりすることで思考力・判断力・表現力の向上が図れるように工夫されている。 ○学習の流れに即して「読み解こう」や「Q」のコーナーが設けられ、(地図・グラフ・絵・図解等の)資料を読み取って考察することで、地理的な見方・考え方が鍛えられるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界地誌の導入ページで、州ごとの主題とともに「持続可能な開発目標」と関連する特徴的な地球的課題を扱い、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら考察できるように工夫されている。 ○三分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々等の事例を積極的に取り上げ、社会の形成者としての自覚と参画への意思を養えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○タイトルに学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおくとともに、生徒が課題意識を明確にすることができるように配慮している。「学習課題」から展開していく課題解決的な学習の流れに沿って教材や資料が掲載されている。 ○「確認/表現」コーナーでは、知識・理解や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返り、生徒が他者と意見交流したり、自ら学び、自ら考える学習に取り組んだりすることにより、学びが深まるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭や折り込みページ・扉ページに資料や写真を大きく掲載することで、地図への興味・関心が高まるように工夫されている。 ○章・節の扉ページに「まなびリンク」を設けており、ウェブサイトから、学習に役立つさまざまな情報にアクセスできるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。難解な用語や補足説明の必要な箇所について、巻末に用語解説を設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるよう工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章・節といった「内容のまとめり」ごとに、学習の見通しが端的に示されている。「学習のまとめと表現」では、学習の振り返りとして、自分の言葉で表現したり意見を交換したりする活動を行い、段階的に学習が深められるように配慮されている。 ○三分野の学びを関連づけるために「関連」マークが設定されており、系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

書名 項目	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	4 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">帝 国</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き 1 時間の内容が「学習課題」から本文、振り返りという展開で構成されている。本文には、全編にわたり地理的事象のしくみや概念等の基本的な知識が理解できるように、因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながら記述されている。 ○資料の読み取りやグラフの作成等の力を伸ばすための「技能をみがく」コーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右下の「説明しよう」では、本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられ、言語活動の充実により、思考・判断・表現力の育成ができるように工夫されている。 ○各章末には「章（節）の学習を振り返ろう」が配置され、章の学習で得た知識を生かして、地理的な見方・考え方を働かせつつ、単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コラム「未来に向けて」が掲載され、持続可能な社会をつくるための人々の取組を示すことで、社会に対し生徒自身がどのように参画していくかを発展的に考えることができるよう工夫されている。 ○最終単元の「地域の在り方を考える」では、「持続可能な社会」を実現する例を提示し、より具体的に地域の在り方を構想し、社会の発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「章（節）の学習を振り返ろう」では、「章（節）の問い」に対して「地理的な見方・考え方」を働かせて考えるステップを設ける等、課題解決的な学習ができるように工夫されている。 ○「確認しよう」「説明しよう」のコーナーで、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげる問いを設けることで、思考力・判断力・表現力が育成されるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や地図、グラフ等が大きく見やすく提示され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる二次元コードが設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントを使用している。用語解説や関連資料について、本文のページの側注欄に設けている。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文、資料、側注等が統一されたレイアウトで配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章・節・各本文ページそれぞれの冒頭に「単元を貫く問い」が設けられており、学習の見通し・振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しをもった学習活動につながるよう工夫されている。 ○三分野の学びを関連づけるために導入、単元を貫く問いの設定、学習の振り返りに一貫性をもたせ、スムーズな学習が展開できるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>中学社会 地理的分野</h1>	1 1 6 目 文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1ページの始めに「学習課題」を明示し、本文や資料で学び、最後に「確認」コーナーが設定されており、習得した知識・技能を文章化・言語化できるように工夫されている。 ○「トライ」のコーナーを設定し、必要な情報の読み取り等の技能を高められるようにしている。また、「スキルUP」を設定し、生徒の発達の段階に応じて、必要な技能を系統立てて習得できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「アクティビティ」等のコーナーで、思考力・判断力・表現力の向上を図る場面を設定し、生徒が自分の言葉で表現できるような言語活動の充実を図ることができるように工夫されている。 ○地理的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」として設け、習得した知識を定着させ活用させることで、思考力・判断力・表現力等の向上を図ることができるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本の諸地域」の章末で「持続可能な開発目標」を示し、これまでの学習をその視点から振り返るとともに、「地域のあり方」では、地域の課題を見出し、地域の在り方を構想できるように工夫されている。 ○各章末において「ふりかえる」「アクティビティ」「チャレンジ地理」等で、主体的に学習に取り組む態度、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、互いのよさを生かして協働する力等が培えるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地理との出会い」で地理的な見方・考え方をつかみ、本文ページの「見方・考え方コーナー」で学習課題の解決に向けた手がかりとなる地理的な見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。 ○「単元のふりかえり」や「アクティビティ」「チャレンジ地理」のコーナーを設け、学習内容の理解を深める主体的・対話的な活動ができるように工夫されている。主体的に考察できる今日的課題が取り上げられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真を見て考えるクイズや現地の人の言葉を紹介する「声コーナー」等が設けられており、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。 ○ICT機器を活用して利用できる「教科書QRコンテンツ」が設けられ、学習効果が高まるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を6種類に区分して解説している。 ○見開きページごとに学習課題を設けている。導入資料、学習課題、本文図版、確認等が統一されたレイアウトで配置されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習課題」と「見方・考え方」が明確に示され、見通しをもった学習がすすめられるように工夫されている。単元の終わりには「学習のまとめ」が設けられ、基礎基本の定着と学習内容を深められるよう構成が工夫されている。 ○「連携コーナー」や章の導入ページで他分野と関連した資料を掲載することで、系統的な学習が展開できるように工夫されている。 	

社会科（地理的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数

内容	東書	教出	帝国	日文
A 世界と日本の地域構成	27	19	24	22
(1) 地域構成	27	19	24	22
B 世界の様々な地域	107	101	102	95
(1) 世界各地の人々の生活と環境	21	19	19	20
(2) 世界の諸地域	86	82	83	75
C 日本の様々な地域	142	149	166	156
(1) 地域調査の手法	16	14	12	20
(2) 日本の地域的特色と地域区分	27	26	28	25
(3) 日本の諸地域	87	101	115	100
(4) 地域の在り方	12	8	11	11
索引	8	10	4	8
資料ページ	13	22	11	14
総ページ数※目録に記載されたページ数	302	308	310	298

※総ページ数には、中表紙や巻末資料も含まれているため合計と一致しない。

○地域の取り上げ方

B (2) 「世界の諸地域」で取り上げている主題

	東書	教出	帝国	日文
① アジア	急速な都市の成長と変化	経済の発展	急速な経済成長	人口や経済発展
② ヨーロッパ	国どうしの統合による変化	国々の結びつき	国どうしの結びつきの強まり	国境をこえた統合
③ アフリカ	国際的な支援からの自立	他地域からの支援の必要性	特定の産物に頼る経済	自立のための開発と国際協力
④ 北アメリカ	多くの人々を引き付ける地域	先進的で多様な産業	巨大な産業	世界に影響をあたえる産業
⑤ 南アメリカ	開発の進展と環境問題	自然破壊と都市の人口増加	農地や鉱山の開発	開発と環境保全
⑥ オセアニア	強まるアジアとの結びつき	他地域との関係の強化	他地域との関係	他文化が共生する社会

C (1) 「地域調査の手法」で取り上げている地域、主題、調査・まとめ

	東書	教出	帝国	日文
地域	高知市	名古屋市	東京都練馬区	京都市伏見区
主題	防災	自然災害	人口と農業	自然と防災・交通と観光
調査・まとめ	防災マップ、インターネット、文献資料、統計資料、空中写真、観光パンフレット、地形図、聞き取り、野外観察、イラストマップ、表、図、班による発表	地形図の読み取り・比較、現地の観察、聞き取り、文献資料、統計資料、博物館や資料館、イラストマップ、模造紙、班による発表	野外調査、聞き取り、地形図や地図、写真、文献資料・統計資料、新旧地形図、空中写真、航空写真、調査ノート、インターネット、グラフ、主題図、班による発表	空中写真、地形図、デジタル地図、新旧地形図、文献資料、インターネット、野外観察、統計資料、聞き取り、ハザードマップ、レポート、壁新聞、プレゼンテーションソフト、班による発表

C (3) 「日本の諸地域」の考察の仕方とページ数 * () はページ数

	東書	教出	帝国	日文
九州地方	自然環境 (12)	自然環境 (14)	自然環境 (16)	自然環境 (14)
中国・四国地方	交通や通信 (12)	人口や都市・村落 (14)	交通や通信 (16)	人口や都市・村落 (14)
近畿地方	人口や都市・村落 (12)	歴史的背景 (14)	環境保全 (16)	歴史的背景 (14)
中部地方	産業 (12)	産業 (14)	産業 (16)	産業 (14)
関東地方	交通や通信 (12)	交通や通信 (14)	人口や都市・村落 (18)	交通や通信 (14)
東北地方	生活・文化 (12)	生活・文化 (14)	生活・文化 (16)	持続可能な社会づくり (14)
北海道地方	自然環境 (12)	自然環境 (16)	自然環境 (16)	自然環境 (14)

C (4) 「地域の在り方」における地域的な課題の扱い方

	内容
東書	宮崎市を例に、「住み続けられるまちづくり」の在り方について考察する。
教出	多摩ニュータウンを例に、地域の課題を調査し、その解決方法について考える。
帝国	京都市を例に、地域の疑問を調査し、地域の課題や将来像を考える。
日文	京都市を例に、地域の課題をとらえ、自分たちにできることを考える。

○埼玉県地理的事象 ※県名のみの場合を除く

	内容
東書	過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、関東平野に広がる畑作地の写真（三芳町）
教出	工場で働くベトナム人の写真（加須市）、首都圏外郭放水路の写真（春日部市）、国内最高気温を更新した熊谷市の写真、さいたま新都心の写真、京浜工業地帯と北関東工業地域の写真（本庄市）、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真（美里町）
帝国	日本最大級のショッピングセンターの写真（越谷市）、住宅地や畑が広がる関東平野の写真（深谷市）、首都圏外郭放水路の写真と地図（春日部市）、東京大都市圏の地価の比較のグラフ（所沢市）、政令指定都市（さいたま市）
日文	内陸型の工業地域の写真（川越市）、政令指定都市（さいたま市）、衛星都市の住宅地の写真（桶川市）、さいたま市（さいたま新都心）

○北方領土・竹島等の領土に関する記述

	北方	竹島	尖閣	東西南北端	内容
東書	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道東方の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は北方領土と呼ばれ、根室市などに属する日本固有の領土です。しかし、現在はロシアが不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔竹島〕竹島は、島根県隠岐の島町に属し、隠岐諸島の北西、約150kmに位置する日本固有の領土です。しかし、韓国が不法に占拠しているため、日本は抗議を続けています。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土で、中心である魚釣島は、石垣島の北、約170kmに位置します。日本が実効支配をしているため、領土問題はありますが、中国や台湾が領有権を主張しています。</p> <p>コラム「新しく広がった領土（西之島新島）」コラム「漁業資源にめぐまれた竹島」コラム「貴重な自然が残る北方領土」コラム「資源が期待される尖閣諸島」</p>
教出	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の東に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を北方領土と呼びます。北方領土は1945年の第二次世界大戦の終結後にソ連に占領されました。終戦時には北方領土には約17000人の日本人が生活していましたが、強制退去させられました。北方領土はソ連の解体後も現在に至るまでロシア連邦によって不法に占拠されています。日本政府は、ロシア連邦政府に対し、日本固有の領土である北方領土の返還を求め続けていますが、いまだに実現されていません。一方で、1992年に始まった北方領土へのビザなし交流など民間での友好的な結びつきは続いています。</p> <p>〔竹島〕竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。</p> <p>コラム「日本の最南端をめぐるとの問題」年表 「北方領土に関する主なできごと」</p>
帝国	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	○ 地図 写真	<p>〔北方領土〕北海道の北東部にある歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、北方領土とよばれ、北海道根室市などに属する日本固有の領土です。1855年に、日本とロシアの国境を択捉島と得撫島の間で確認してから、北方領土を他の国の領土とする条約が結ばれたことはありません。北方領土の近海は水産資源が豊かで、かつて多くの日本人がこれらの島に住んでいました。しかし、北大領土は1945年に、日本との条約を無視して一方的に侵攻してきたソビエト連邦に占領され、日本人は立ちのかわされました。ソビエト連邦は、サンフランシスコ平和条約に署名せず、現在までロシアが不正に占拠した状態となっています。日本は、北方領土の返還に向けてロシアと平和条約を結ぶため、交渉を続けています。</p> <p>〔竹島〕日本海にある竹島は、島根県隠岐の島町に属する日本固有の領土です。17世紀には現在の鳥取県の人々が漁を行っており、1905年に明治政府が島根県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。しかし、サンフランシスコ平和条約で竹島に対する主張を退けられた韓国は、1952年に海洋への権利を唱えて一方的に公海の上に境界線を引き、竹島に海洋警察隊や灯台を置いて、不法に占拠しています。日本はこれに抗議し、国際司法裁判所での話し合いをたびたび呼びかけていますが、韓国が応じていません。</p> <p>〔尖閣諸島〕東シナ海にある尖閣諸島は、沖縄県石垣市に属する日本固有の領土です。明治政府が、ほかの国の支配が及んでいないことを慎重に確認したうえで、1895年に沖縄県への編入を内閣で定めて、自国の領土とする考えを公式に示しました。その後、一時は島で200人以上が暮らし、かつおぶし工場も造られました。サンフランシスコ平和条約でも、南西諸島の一部として日本の領土とされました。尖閣諸島をほかの国の領土とする条約が結ばれたことはなく、日本政府による管理も及んでいるため、ほかの国との間で解決すべき領有をめぐるとの問題はありません。尖閣諸島では、1960年代には、石油などの資源が周辺の海底にある可能性が注目され、1970年代に入ると、中国などが領有権を主張するようになりました。その後、日本は2012年に、尖閣諸島を平穏に維持、管理するために、その大半を国有地化しました。</p> <p>コラム「護岸工事によって守られた沖ノ島」コラム「漁業が盛んだった昔の竹島」</p>

<p>日文</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>○ 地図 写真</p>	<p>[北方領土] 北方領土は、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなる日本固有の領土です。面積は合計約 5000 km²もあり、福岡県や千葉県とほぼ同じ広さです。日本は 18 世紀ごろから本格的な開発を始め、1855 年の日露通好条約で、日本の領土であることが確認されました。周辺の海域は、こんぶやかになどの水産資源が豊富で、かつては多くの日本人が漁業をしながら生活していました。しかし、1945 年の第二次世界大戦後にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが不法に占拠しています。ソ連に占領されるときに、当時住んでいた日本人はふるさとを追われ、現在、北方領土に日本人は住んでいません。日本は、北方領土の返還をロシアに強く要求していますが、いまだに実現していません。</p> <p>[竹島] 竹島は、本州から約 200km 離れた日本海にある日本固有の領土です。竹島周辺は豊かな漁場で、17 世紀初めには日本人が漁業などに利用していました。1905 年には国際法に従って島根県に編入されました。ところが 1952 年から、韓国が、一方的に自国の領土であると主張して竹島を取り込み、警備隊員を常駐させたり、施設を作ったりして、不法に占拠しています。日本は、韓国に対して何度も厳重に抗議しています。</p> <p>[尖閣諸島を取り巻く情勢] 尖閣諸島は、石垣島から約 170km 離れた東シナ海にあります。1895 年に日本が自国の領土であることを宣言して、沖縄県に編入しました。また、サンフランシスコ平和条約でも日本の領土とされ、このことに周辺の国々からの反対はありませんでした。その後も、日本固有の領土として管理されてきており、尖閣諸島には領土問題は存在していません。ところが、東シナ海に石油が埋蔵されている可能性が指摘され、1970 年代になって、中国が尖閣諸島の領有権を主張するようになりました。最近では、中国の船が日本の領海にたびたび侵入してくるため、日本は、中国に厳重に抗議し、領土の保全に取り組んでいます。</p> <p>コラム「沖ノ島島を守るために」</p>
-----------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	---

社会科（歴史的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解できるように、どのような工夫が見られるか。 ○諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などについて、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分野の学習において課題（問い）を設定し、その課題（問い）の追究のための枠組みとなる多様な視点に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。 ○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 歴史</h1>	2 東 書
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。また、小学校の学習事項が年表に位置付けられている。 ○学習に必要な技能を身に付ける「スキル・アップ」が設けられている。また、身に付けた技能を活用する「読み取る」「まとめる」などのコーナーが設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「チェック&トライ」では、学習内容の説明や要約、原因や結果をまとめたりする等、事象を解釈して表現できるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「クラゲチャート」、「Xチャート」、「ピラミッドストラクチャ」等の思考を整理するツールを活用した学習活動が設けられている。 ○「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせてより深く思考・判断できるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○1単位時間の学習で追究する学習課題を示し、生徒が見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントが示されている。また、思考を整理するための思考ツールが提示されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入に小学校の振り返りと小集団の協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立てて、学習に見通しをもたせるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「探究のステップ」が設けられ、見開きごとの活動が段階的に「探究課題」の解決へとつなげられるように構成されている。 ○「みんなでチャレンジ」では、対話的な学習の場面が設けられ、持続可能な社会の実現に向けて構想し、積極的に社会参画したり、他者と協働したりしながら、より良い社会を築こうとする意識や態度を養えるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵のほか、資料の大きさが記されている。 ○Dマークや二次元コードを付し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きで学習している時期を示すスケールが入れられている。また、地理や公民の学習と関連が深い内容には、関連マークが付けられている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めることができるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</h2>	<div style="text-align: center;">17</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。また、本時の学習をまとめる「確認」と「表現」が設けられている。 ○絵や写真、新聞、地図や系図等の学習の中で活用する資料について、資料活用の方法や手順を示している「歴史の技」が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「表現」では、学習内容を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで事象を解釈して、表現できるように工夫されている。 ○「歴史の窓」やテーマ学習のページでは、個人やグループで歴史的事象について多面的・多角的な思考や理解を深められるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめと表現」では、時代の特色を言葉で説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入の「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○生徒が自ら資料を読み解くために「読み解こう」のコーナーを設け、読み解きのガイドとして活用できるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入「学習を始めよう」では、その時代を象徴するような資料とそれに関わる問いが示され、見通しをもって学習が進められるように工夫されている。 ○本文とは視点を変えてとらえ直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに ～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習のきっかけや探究の中心となる、導入資料・中心資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、疑問点や解説が掲載されている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習内容の定着のための2段階の課題が示されている。 ○見開きに「時代スケール」として学習する時代の範囲を色で表し、小学校で学習した人物・中学校で学習する人物が識別できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を通して、人権や平和、環境、災害・防災等、現代社会に見られるさまざまな課題や、それにつながる歴史を取り上げ、自己と社会・歴史とのつながりについて、考えを深められるように配慮されている。 	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">社会科 中学生の歴史</h2> <h3 style="margin: 0;">日本の歩みと世界の動き</h3>	4 6 帝 国
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」で構成されている。 ○歴史的な見方・考え方を働かせる上で必要な基礎的な技能が習得できる「技能をみがく」コーナーが設けられている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「説明しよう」では、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されている。 ○章のはじめに設けられた「問い」は、時代の特色を論理的に説明する際の手がかりとなるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを整理し、話し合い、説明することで学びを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「タイムトラベル」では、単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるように工夫している。 ○中学生のキャラクターが発問や気付き、学習の手がかりや示唆等を提示することで、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「章の問い」、「節の問い」、「見開きの問い」（学習課題）と単元のまとまりで課題解決的な学習、深い学びにつなげられるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、見開きから節、節から章へと段階的に振り返りを行い、学習を積み重ねて課題追究ができるように構成されている。 ○「多面的・多角的に考えてみよう」と「多面的・多角的に構想する」では、社会に見られた課題に対する当時のさまざまな立場や選択を通して考察し、さまざまな立場と多様性を踏まえた社会の成長を構想することを促すように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に吹き出しを付け、学習の手がかりが示されている。 ○二次元コードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○見開きの右端に「年表インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A B版が採用されている。 ○教科書全体を通して、さまざまな立場や選択を踏まえて考察する活動が設けられたり、歴史上の人々が連携・協働して課題の解決に取り組む姿が紹介されたりして、多面的・多角的に歴史をとらえられるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学歴史 日本と世界</h1>	8 1 山 川
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。 ○「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技術が習得できるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「ステップアップ」では、授業で学んだことを整理し、その後の歴史や現代の自分たちにどう影響したか、考えられるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」では、美術作品や史料・地図、憲法や選挙等が取り上げられ、話し合いや考察を通して歴史の思考力を養えるように工夫されている。 ○章末「まとめ」では、時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「身近な地域を調べよう」では調査の順序、注意事項等を示し、生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。 ○生徒にとって意味の分かりにくい用語に用語解説を付している。同じページに示すことで、理解し易いように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○学習の見通しをもてるように、各章の冒頭に視覚的に歴史の流れをつかめるような資料を用いたり、見開きの冒頭に学習課題が明示されたりしている。 ○「身近な地域を調べよう」では、実際の中学生を想定し、調査の順序や注意事項を示して、生徒が主体的に課題を追究することができるように工夫されている。 ○「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、史料の細部をクローズアップしたり発掘調査の結果を踏まえたりすることで、さまざま角度から課題を追究できるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○二次元コードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、課題を追究した学習ができるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○地図・グラフなどは、UDに配慮されている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と課題追究のための「ステップアップ」の発問が示されている。 ○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。 ○本文は、常体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体が歴史を学ぶ力を養うために「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで構成されている。また、高校につながる教科書として構成・叙述の流れや資料等が工夫されている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学社会 歴史的分野</h2>	1 1 6 目 文
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」で構成され、「確認」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。 ○「スキルUP」では、歴史学習を進めるにあたって必要な技能を解説している。社会的事象等について調べ、まとめる技能が身に付けられるように工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きのまとめ「確認」では、学習内容を理解しているか確認するために、自分の言葉で説明する問いが設けられている。 ○章末「とらえよう！○○の特色」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 ○見開きの「見方・考え方」では、学習課題の解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して学習課題の理解が深められるように工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「歴史との対話を未来に活かす」では、テーマ別さくいんが設けられ、災害・政治参加・世界平和について考える学習課題が示されている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページが設けられている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の「めあて」を明示して学習の見通しをもてるように工夫されている。 ○歴史の学習の最後「『歴史との対話』を未来に活かす」では、課題の解決に向けて歴史をふまえて未来を考える学習活動が設けられている。 ○「『歴史との対話』を未来に活かす」や「先人に学ぶ」では、現代の課題の背景や人権、環境、平和、防災、減災への先人たちの取り組みを学び、解決の手立てについて生徒が歴史を踏まえて考えることができるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習の導入となる写真資料や関心を高めるための地図が大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に表現したりする活動が示されている。 ○教科書内容の理解を助ける動画やワークシートなどの教科書QRコンテンツをウェブサイトで公開し、教科書には「デジタルマーク」が表示されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と手がかり、学習内容を理解するための問いが示されている。 ○見開きの右端に学習している「時代」を色で示した年表が掲載されている。見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、AB版が採用されている。 ○教科書全体を「私たちと歴史」「古代までの日本と世界」「近世の日本と世界」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の6つに編成し、詳細な学習に陥ることがないように学習内容の焦点化を図るための配慮がされている。 </p>	

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">[最新] 新しい日本の歴史</h2>	227 育鵬社
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成され、つかむ、調べる、まとめる、表現するという配列になっている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報を収集し、レポートにまとめ、発表するという方法が示されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○見開きの学習のまとめでは、学習内容をレポートや論述形式でまとめたり、解釈したりする問いが設けられている。 ○『私の歴史博物館』をデザインしてみよう』では、展示方法を考えさせることで、資料から情報を効果的に調べ、まとめられるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○序章「歴史探検！」では、歴史を学ぶ意欲が高まるように、小学校での学習を振り返ったり、特定の人物について調べ、まとめ、発表したりする活動が設けられている。 ○「歴史のターニングポイント」では、生徒が、「もし、その時、私が当事者だったら」という意識で、歴史と向き合えるように工夫されている。 </p> <p> <課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。 ○各章冒頭の「○○の世界へようこそ！」では、課題と主体的に向き合うための設問が設けられ、歴史に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、日本の歴史を大観し、表現する学習活動が設けられている。 </p>	
資 料	<p> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○「日本の美の形」「歴史絵巻」等のページは、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるように工夫されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○図版は、色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使われている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている。 ○各章の章扉に「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるように工夫されている。 ○本文は、敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 </p>	
総 括	<p> ○教科書の紙面は、A B判が採用されている。 ○学習内容の理解をより深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性をもたせるように配慮されている。 </p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">ともに学ぶ人間の歴史</h1>	229 学び舎
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の扉のページで部の学習課題があり、章のあと・部のおわりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられている。 ○「地域の博物館で調べる」でインターネットや博物館を利用した調べ学習・体験者からの聞き取り・討論の方法等が紹介されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特設ページ「歴史を体験する」では、活動を通して考えたことを話し合ったり、発表したりする問いが設けられている。 ○「章の振り返り」では、歴史事象をさまざまに関連付けさせたり、意見交換をさせたりして、グループ活動等を通して深められるように課題が設定されている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、各時代の特色を多面的・多角的に考察し、学びを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特色のある図版と記述等から疑問や問いが生まれるように工夫されている。また、本文の太字をなくしている。 ○章の扉のページに北極を中心とした地図を置き、テーマに沿って世界各地のようすを想像・予想できるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各時代の導入として、扉ページで各時代の「学習課題」が示されており、学習を進めながら時代の特色を考えていく構成になっている。 ○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結びつけ、より良い社会の実現に向けて考えられるように公民学習につなげられるように工夫されている。 ○現代史の学習では、21世紀までテーマを設定し、歴史的な事象を今日の社会と結びつけ、より良い日本の社会と世界の実現を視野に、さまざまな社会の課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵が掲載されている。 ○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○地図・グラフは、色覚特性に配慮されている。 ○見開きの見出しは、太字で表記されている。見開きに生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。 ○巻末の年表では、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が世界の出来事と関連付けて掲載されている。 ○本文は、敬体で記され、学年に応じた文章表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A判が採用されている。 ○生徒の主体的な学びの実現を目指した図版や記述の工夫がされている。女性や子ども等、さまざまな分野・階級の人びとの生活を学ぶことで、誰もが個人として尊重し合える社会について考えを深められるように配慮されている。 	

社会科（歴史的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数 ※教科書に記されているページ数の内訳を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
A	(1) 私たちと歴史	10	9	7	3	11	13	6
	(2) 身近な地域の歴史	16	19	31	19	11	10	4
B	(1) 古代までの日本	42	40	42	44	48	50	44
	(2) 中世の日本	34	34	34	38	40	34	32
	(3) 近世の日本	48	48	48	50	50	52	48
C	(1) 近代の日本と世界	98	104	96	97	99	98	110
	(2) 現代の日本と世界	32	37	30	28	44	38	34
その他（資料ページ・索引）		28	27	22	15	31	23	30
総ページ数		308	318	310	296	336	320	308

※総ページ数は目録に記載されたページ数

○基礎・基本の定着

(1)取り上げている日本の歴史上の人物数（索引から）

※日本において我が国の歴史とかかわった外国人を含む。

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	32	35	29	32	29	44	25
中世	65	59	52	59	48	55	44
近世	69	79	51	83	47	104	51
近代	102	119	113	96	93	131	72
現代	29	31	33	17	13	45	23
合計	297	323	278	287	230	379	215

(2)我が国の歴史的背景として取り上げている世界の歴史のページ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
古代まで	10	12	10	14	17	6	18
中世	2	2	0	4	2	2	6
近世	6	6	6	10	6	4	8
近代	24	24	20	26	22	14	34
現代	4	6	2	6	8	4	10
合計	46	50	38	60	55	30	76

(世界の歴史を中心に構成されたページを数えたもの)

○言語活動の充実

(1)各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現する学習

東書	○古代：古代日本のキーパーソンはだれだろう／○中世：古代との比較から中世の特色を探ろう／○近世：近世で最も活躍した身分はどれだろう／○近代：日本と世界との結び付きを考えよう、戦争へのターニングポイントは何だろう／○現代：現在の日本を形作ったものは何だろう
教出	○各章：学習のまとめと表現(○○の時代の移り変わりを確かめよう。○○の舞台を地図で確かめよう。○○について説明しよう。○○の時代の特色を考えよう。)
帝国	○各章：章の学習を振り返ろう(学んだ事を確かめよう。歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう)
山川	○各章：まとめ
日文	○古代：「文字の変化」／○中世：「法」／○近世：「幕府の収入」／○近代「明治政府の政策」「戦争」／○現代：「復興と成長の源」に着目して、時代の特色にせまろう
育鵬社	○各章：学習のまとめ(○○○の時代をふり返って考えてみよう)
学び舎	○各章：第○章をふりかえる／学習のまとめ／歴史を体験する

○社会に参画する資質・能力の育成

(1)身近な地域の歴史を調べる活動（具体的な事項）

	内容
東書	「地域の歴史を調べよう」（大陸への玄関口・福岡／戦国時代の城下町・一乗谷／会津藩の政治と産業／多文化共生都市・神戸／東京大空襲の記憶を伝える／広島復興と平和への思い）
教出	「身近な地域の歴史を調べよう」（地域の遺跡や古墳を訪ねて／地域の寺社を訪ねて／地域の街道や港を訪ねて／明治期の面影を訪ねて／大正・昭和初期の面影を訪ねて／移り変わる戦後の街を訪ねて）
帝国	「歴史を探ろう」（古墳から分かる当時の様子／東アジアに開かれた窓口 博多／琉球とアイヌの人々の暮らし／昆布ロードと北前船／世界有数の百万都市 江戸／世界に開かれた港 横浜／移住と開拓が進む北海道／「絹の道」と日本の製糸業／発展する産業都市 大阪・神戸／長野県から見る満州移民／戦場となった沖縄）
山川	「地域からのアプローチ」（奈良／福岡／平泉／金沢／札幌／広島／沖縄）
日文	「でかけよう！地域調べ」（史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く－奈良県奈良市－／歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる－広島県福山市－／城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる－兵庫県姫路市－／近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる－群馬県富岡市－／戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる－大阪府大阪市－／地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる－福岡県北九州市－）
育鵬社	「地域の歴史を調べてみよう」（大阪の歴史・ワクワク調査隊／横浜の歴史・ワクワク調査隊）
学び舎	「地域の博物館で調べる」／「歴史を体験する」（地域の歴史を歩く／一人ひとりの歴史・家族の歴史）

○埼玉県の歴史的事象 ※資料の出典が、埼玉県内の博物館等に所蔵されているものを含む。

	内容
東書	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／長善館（川越藩校）／渋沢栄一／1号機関車／秩父事件／増税に泣く国民／旧国名地図（武蔵）／各地の主な史跡（埼玉古墳群・吉見百穴）
教出	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／増税に泣く国民／渋沢栄一／原爆の凶／各地の主な遺跡・史跡・できごと（高麗神社・吉見百穴・鉢形城跡）
帝国	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／職人尽絵／主な大名の配置（阿部）／江戸時代の交通・関所（栗橋）／廃藩置県（入間・埼玉）／秩父事件／重税に苦しむ国民／渋沢栄一／東京停車場之図
山川	稲荷山古墳出土の鉄剣／古代の行政区画（武蔵）／太平記絵巻／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一
日文	稲荷山古墳出土の鉄剣／男衾三郎絵詞／律令国家における行政区分（武蔵）／江戸時代の主な都市・城下町（岩槻）／黒船を見学する民衆／渋沢栄一／秩父事件／100年ほど前の田園調布（渋沢栄一らが開発）
育鵬社	人形埴輪／稲荷山古墳出土の鉄剣／前方後円墳の分布（稲荷山古墳）／男衾三郎絵詞／職人尽絵／江戸時代の城下町（岩槻）／宗門改帳／大工職人たち／廃藩置県（入間・埼玉）／渋沢栄一／秩父事件／ノーベル賞・梶田隆章／各地の主な遺跡（吉見百穴・埼玉古墳群）
学び舎	農夫のはにわ／稲荷山古墳出土の鉄剣／平城京までかかる日数（武蔵）／千早城に立てこもる楠木正成軍／古代アンデス文化の土器／綿花の主な生産地（武蔵）／黒船を見物する人々／武州世直し一揆／廃藩置県（入間・埼玉）／最初の切符／歴史地図（秩父事件・稲荷山古墳）

社会科（公民的分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深められるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けられるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるため、どのような工夫が見られるか。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○分野の学習において適切な課題を設定し、その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点（概念など）に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるように、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料の配置、資料と本文との関係には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現（見出し、記号、用語、脚注等）に、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>（全体的な特徴、その他）</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい社会 公民</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 2 東 書 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各章の導入で身近な生活をテーマにした活動が示されており、各章ごとに設定される「探究課題」は、社会との関わり方を考えるものにするすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、資料の読み取り方・収集方法等を紹介する「スキルアップ（9テーマ）」や、それを活用するコーナー「集める・読み取る・まとめる」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を活用して考察する場面を示した「見方・考え方」や、小集団の協働的な活動を行う「みんなでチャレンジ（21テーマ）」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○章の最初に「探究課題」を示し、「まとめの活動」において思考ツールを使った学習内容の整理・解決により何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を、学習内容を基に多面的・多角的に考察し、社会参画を促す「もっと公民（9テーマ）」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○「学習のはじめに」で章全体を貫く「探究課題」を設定し、「まとめの活動」で課題について追求・解決するようにしている。導入から振り返りまでの課題解決的な学習の流れを通して単元全体でまとまりを持たせるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、各章の導入等に他分野・他教科との関連を示すマークが付され、多面的・多角的に学習を進められるよう工夫されている。また、QRコードやURLのリンクから、他分野・他教科の紙面確認や補習用のシミュレーション、動画が活用できるようになっている。さらに、学習内容を深化させるための「公民にアクセス」コーナーや特設ページ「もっと公民（9テーマ）」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、資料の掲載部分には文字の読み取りに支障のない地色を敷いて区別する等、見やすくなるような工夫がされている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「考える」等のコラムを活用し、課題解決に必要な情報を収集できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○章の導入の活動を通して、単元を貫く「探究課題」を立て、課題の解決を通して獲得した知識をまとめの段階で活用し振り返る流れとなっている。身近な事例を基に見方・考え方を働かせて現代社会の課題を追求・解決できるよう「まとめの活動」が設定されている。そこではグループ学習を通して多面的・多角的に考察することで理解を深め、社会参画する態度を養うよう工夫がされている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学社会 公民 とともに生きる</h1>	<div style="text-align: center;">17</div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各章の導入で学習テーマに関連する実社会の写真資料や身近な例を示し、巻頭・巻末・終章においてSDGsというテーマを取り上げることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、技能や表現力を養うためのグループ活動等を紹介する「公民の技（10テーマ）」や、資料を読み取る手がかりとなる「読み解こう」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、ディベート等の表現活動を行う「言葉で伝え合おう（6テーマ）」や、各章の最後に、現代社会の見方・考え方を働かせて考える「章全体のテーマ」について問題が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各章の「学習のまとめと表現」では、資料を基にした話し合い活動を通して課題解決に取り組むことで何を学んだのかを捉えられるよう工夫されている。</p> <p>○社会参画の意識を高めるために、日本の将来に関する資料に対して「読んで深く考えよう（6テーマ）」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○各章の導入で学習内容と章全体の課題を掲載することで見通しを持たせている。「学習のまとめと表現」では学習内容を振り返って整理し、章全体の課題の追究・解決に向けて考察・表現することで単元全体の流れをつかめるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「まなびリンク」からウェブサイトを紹介して関連サイトから情報や資料を収集することができるよう工夫されている。また、見開きの左ページ上部に導入・中心資料が掲載され、資料と解説、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。さらに、学習内容を深化させるために「公民の窓（38テーマ）」「読んで深く考えよう（6テーマ）」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面は色覚等の特性をふまえた配色やレイアウト、表現方法やUDフォントを採用し、学びやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、「公民の技（10テーマ）」でグループ学習を通して技能や表現力を養えるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各章の学習のはじめに単元を貫く「学習課題」が提示され、それを解決するために学習を積み重ね、まとめの学習で振り返る流れとなっている。「学習のまとめと表現STEP2」では、思考ツールを活用して課題に取り組み、学習内容を統合・深化するよう工夫されている。また、「公民の窓（38テーマ）」により日本や国際社会の情勢についての認識を深めることで社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して</p>	<p>4 6 帝 国</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各章の導入で日常の社会生活を鳥瞰したイラストを示し、そこから学習を開始するとともに、各章の振り返りでもそのイラストを再度活用してまとめを行うことで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、思考ツール等の技能を紹介する「技能をみがく（10 テーマ）」や、資料を読み取る手がかりを示した「資料活用」の問いが適宜設定され、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら現実社会に見られる課題について追究する「アクティブ公民（10 テーマ）」や、単元を貫く問いを考察する「章の学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各章の「学習の前に」では学習内容を概観する導入や視点がイラストと共に示されており、章全体の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○章の問いについて、他者との意見交換を通して自分の考えを広げ、深め、答えを導いていく「章の学習を振り返ろう」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○「アクティブ公民（10 テーマ）」では現実社会に見られる様々な課題が設定されている。グループ学習を通して様々な立場を踏まえた上で合意形成を目指す議論を行うことで、課題の追究・解決に向けて取り組めるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○学習効果を高めるために、二次元コードを利用することで、PC等での資料の閲覧や関連動画の視聴、振り返り問題の解答確認ができるようになっている。また、見開きの左ページ上部に生徒の身近な事例等の写真やイラストが導入資料として掲載され、資料活用の視点とともに示されている。さらに、学習内容を深化させるための「公民プラス（25 テーマ）」や「未来に向けて（12 テーマ）」が設定されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、色覚等の特性を踏まえ、折れ線グラフ等は、線種を変えることで色以外の情報からでも識別できるよう工夫されている。 ○1 単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「確認しよう」・「説明しよう」を活用して、学習内容の確認と振り返りができるよう工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○教科書の最初に「学習のはじめに 夢に向かって」という記述があり、公民を学ぶ意義や学びと社会との関連性について記載されている。章のはじめに単元を貫く「章の問い」が明示され、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。「アクティブ公民（10 テーマ）」では、様々な立場の違いにより起こる対立から合意形成を目指す活動を通して社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学社会 公民的分野</h1>	116 目文
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各章の導入「学習のはじめに」では、身近な場面から学習内容と「見方・考え方」を示しつつ、編（章）末「チャレンジ公民（4テーマ）」では、社会の課題を考察・構想をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるよう工夫されている。また、情報の読み取り等を行う「情報スキルアップ（3テーマ）」や、思考ツール習得のための「シンキングツール（9テーマ）」が適宜設定され、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、現代社会の見方・考え方を働かせながら学習理解を深める「アクティビティ（38テーマ）」や、社会の課題について考察・構想をする「チャレンジ公民（4テーマ）」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各編の導入では、その編で働かせる見方・考え方を概観する漫画が掲載されており、見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○身近な地域の抱える課題や将来について考え、社会参画を促すための手がかりとなる「明日に向かって」が設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○各1時間単位の学習の手がかりとして「学習課題」「見方・考え方」を示している。また、「アクティビティ（38テーマ）」「深めよう」を活用することで、学習内容の理解を深め、課題を追究・解決しやすくなるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、「デジタルマーク」の掲載ページは、ホームページから理解を補助する動画やワークシート等を利用できるようになっている。また、見開きの左ページ上部に写真やイラスト、グラフ等の資料が掲載され、キャラクターのコメントで資料の見方を示している。さらに、学習内容の理解を深めたり、発展して考えたりするために「公民+α（22テーマ）」や「深めよう」等が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面はUDフォントを採用し、グラフ・地図等の図版の配色や体裁に配慮し学びやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料を本文の周りに配置し、「見方・考え方」では働かせるべき視点を示し、学習内容を深く理解できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○教科書の内容全体を通して学習課題の解決に向けて働かせるべき見方・考え方が示されている。「学習の整理と活用」では「シンキングツール」を用いたグループ学習が示され、多面的・多角的に考察することで学びを深め、何を学んだかを捉えることができる。「明日に向かって」では学習した内容を活かし身近な地域の抱える課題や将来について考えることで、社会参画する態度を養うよう工夫されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<h1>新しい公民教科書</h1>	<p>225 自由社</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○単元最後の「ここがポイント！」において、授業でおさえるべき確認事項を示し、「アクティブに深めよう（7テーマ）」という特設ページにて歴史的文化背景や社会の仕組みについて考察することにより、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、学習内容を深めるための調べ学習や話し合いの視点を示す「やってみよう」が適宜設定され、終章では「論文の書き方」等が示されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○思考力・判断力・表現力等を効果的に育成するため、各章最後にテーマを選択・考察し、表現する「学習の発展」や、現代社会の見方・考え方を働かせ歴史的文化的背景等について考察する「アクティブに深めよう（7テーマ）」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各章の「学習のまとめと発展」では章の学習を発展させるためにテーマを選択し、既習事項を活かしてまとめることで何を学んだのかを捉えるよう工夫されている。 ○重要なことがらを深く理解するために関連する単元のそばに「もっと知りたい」という特設ページが設定されている。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫> ○各単元の最初に学習課題が設定され、最後に授業でおさえるべき確認事項をまとめた「ここがポイント！」が示されている。これらの学習過程を通して基礎的・基本的な知識を習得させることを目指した学習に取り組めるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○学習効果を高めるために、各単元の見開きには「ミニ知識」というコラムを設け、学習内容の理解をより深めようと工夫されている。また、巻頭で「世界に誇る日本の先端技術」、巻末で「日本の伝統的工芸品」の特集が生まれ、地図や写真を掲載して我が国の理解を深める工夫が見られる。さらに、学習内容を深化させるための調べ学習や話し合い活動の視点を示した「やってみよう」が設定されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○教科書全体の紙面は重要語句にゴシック体を採用し、関連した単元に複数出てくるなど、公民分野のつながりを意識した学習を進めやすくなるよう工夫されている。 ○1 単位時間の内容理解の補助として本文の周りに用語解説を設け、1 単位時間の最後に内容を総括する記載があり、学習課題を解決できるよう工夫されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各小単元の学習課題を解決するための視点は各ページの最後に記載されているため、学習の見通しをもって取り組めるようになっている。重要語句は太字で示し、すべて巻末の索引に記載され、補足も測注に掲載されているため、基礎的・基本的な知識の習得を目指している。また、終章のレポート、ディベート等、習得した知識を活用し、学習内容を補足・深化させるよう工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>〔最新〕新しいみんなの公民</h1>	227 育鵬社
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○各章の導入「入り口」では、学習内容の大筋を捉えさせる言語活動を示し、各章の章末「これから」では、社会に見られる課題について考察・構想をすることで、個人と社会との関わりを中心に学習理解を深められるように工夫されている。また、ディベートの仕方等を示した「スキルアップ（7テーマ）」や資料について取り組む課題を示す「TRY」が適宜設定されており、効果的に技能を身に付けられるよう工夫されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○思考力、判断力、表現力等を効果的に育成するため、見開きごとに学習内容を自分の言葉でまとめる鉛筆マークや、現代社会の見方・考え方を働かせ討論や考察等の小集団での協働的な活動を促す「やってみよう（17テーマ）」等が設定されている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各章の「入り口」では、章全体の内容を概観するためのグループ活動が設定されており、学習内容の見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○各章の章末には、章で学習した内容を踏まえて、社会に見られる課題を自分事として考えさせ、社会参画への態度を養えるように「これから」が設定されている。 </p> <p> ＜課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○見開き1単位時間の紙面で「つかむ」ための導入資料、「調べる」ための本文と図版・写真資料が配置されている。これらの資料を活用して「まとめる」ことで学習内容を深く理解し、課題を追究・解決する学び方の工夫がされている。 </p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、図版や写真等の資料を大きく見せて掲載している。また、主な法令や年表、日本の伝統文化の一覧表等、学習資料を巻末に掲載したり、日本国憲法には難しい用語の解説を付けて理解を深めたりする工夫している。さらに、学習内容を深化させるための「学習を深めよう（49テーマ）」や、学習を発展させるための視点を示す「TRY」が設定されている。</p>	
表記・表現	<p>○教科書全体の紙面は色覚特性を踏まえて、図版は判別しやすい色や表示にするなど見やすくなるよう工夫されている。</p> <p>○1単位時間の内容を補足する写真・図版資料が本文の周りに配置し、「学習を深めよう」では発展的な資料を示し、学習内容を深められるような工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○冒頭に公民を学ぶ理由について様々な角度から記載されている。章の内容を「入り口」で概観させた上で学習を積み重ね「これから」で現代社会に見られる課題の解決や未来の姿について構想する流れとなっている。「やってみよう」では様々なテーマを基にディベート等の参加型学習を行い、知識を活用し社会的事象を個人と社会との関わりを中心に捉えられるよう工夫されている。</p>	

社会科（公民的分野） 調査資料 2

○内容別ページ数

※教科書に記されたページ数を数えたもの

内容		東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
A	私たちと現代社会	31	25	26	28	40	27
(1)	私たちが生きる現代社会と文化の特色	18	14	16	18	21	18
(2)	現代社会を捉える枠組み	13	11	10	10	19	9
B	私たちと経済	51	62	64	54	43	51
(1)	市場の働きと経済	36	25	50	38	24	34
(2)	国民の生活と政府の役割	15	37	14	16	19	17
C	私たちと政治	88	88	80	88	76	78
(1)	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	37	43	38	44	41	39
(2)	民主政治と政治参加	51	45	42	44	35	39
D	私たちと国際社会の諸課題	38	42	40	45	58	42
(1)	世界平和と人類の福祉の増大	33	35	32	36	41	35
(2)	よりよい社会を目指して	5	7	8	9	17	7
その他（資料ページ・索引）		37	29	23	36	34	39
総ページ数※目録に記載されたページ数		262	272	246	264	256	256

※総ページ数には、目次や中表紙も含まれているため合計と一致しない。

○項目別取り上げた事項

(1) 現代社会を捉える枠組み（「対立」と「合意」、「効率」と「公正」など）を養う学習

	内容
東書	部活での体育館利用規則を作る事例/ある市の自転車の使用ルールを考える事例/市長になって条例を作る事例/コンビニエンスストアのお弁当を企画する事例など
教出	合唱コンクールの練習場所の割り振りを考える事例/ごみ収集所の設置場所を考える事例/まちづくりのアイデアを提言する事例/給食の作り方から考える事例など
帝国	マンションの騒音問題の解決を考える事例/ゴミ置場の掃除規則から考える事例/赤字バス路線に税金を使うべきか考える事例/よりよいまちづくりを考える事例など
日文	合唱コンクールの練習スケジュールを考える事例/ケーキの分配から考える事例/道路の拡張計画から考える事例/自分たちのまちの首長を選ぶ設定から考える事例など
自由社	部活での体育館使用規則を作る事例/魅力ある「まちづくり」から考える事例/家事方法の進歩が社会にもたらした影響から考える事例/お店を出店する設定から考える事例など
育鵬社	昼休みのグランド使用ルールを考える事例/物々交換ゲームから考える事例/お小遣いの使いみちから考える事例/救急車の「不要不急」の利用問題を議員になって考える事例など

(2) 法や金融に関する学習

	内容
東書	ちがいのちがい/私の選ぶ自由は/プライバシーの権利と表現の自由について考えよう/先住民族としてのアイヌ民族/模擬裁判をやってみよう/需要量・供給量・価格の関係について考えよう など
教出	ともに生きる社会をみざす人たち/死刑制度について考えよう/ネット社会で人権を守ることとは/「新しい人権」を考える/ピラミッドランキングを完成させよう（日本国憲法に定められた自由や権利）/もしも裁判員裁判に参加したら など
帝国	防犯カメラを巡って/有名人の個人情報をも断断で公開することについて/青果店を営む男性はどうなる？/裁判の判決を考えよう/あなたが無人島に漂着したら？/ライフプランからお金について考えてみよう など

日文	人間らしく生きるために必要なものは？/ビッグデータと防犯カメラ/ネット社会とつき合う方法/15歳は「子ども」？それとも「大人」？/裁判員シミュレーション/為替相場の変化の影響など
自由社	立憲主義の大切さについて考えよう/基本的人権のどの項目にあたる行為でしょうか/ 権利の平等に関する問題/新しい人権/犯罪被害者の人権保障の動き/裁判員制度 など
育鵬社	世界の人種問題/死刑制度についてディベートしてみよう/裁判員になって判決を考えよう/最高裁判所裁判官の模擬審査をしてみよう/銀行員になって融資をしてみよう/人生をデザインしよう など

(3)国家主権・領土問題に関する学習

	内容
東書	主権国家/沖ノ鳥島/国際法/国旗・国歌/特設ページ「公民にアクセス」日本の領土をめぐる問題の現状（竹島問題、北方領土問題、尖閣諸島への対応）/拉致問題
教出	主権国家/国旗・国歌/国際法/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「読んで深く考えよう」日本の外交のいま（中国との外交関係、北朝鮮との外交関係、ロシアとの外交関係）/拉致問題
帝国	主権国家/国際法/国旗・国歌/拉致問題/尖閣諸島/北方領土/竹島
日文	国家主権/国旗・国歌/国際法/沖ノ鳥島/北方領土/竹島/尖閣諸島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題の解決に向けて」（北方領土、竹島、尖閣諸島、世界の領土問題とその解決）/拉致問題
自由社	主権国家/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/天然ガス採掘施設/国旗・国歌/特設ページ「もっと知りたい」国旗と国歌を考えてみよう/特設ページ「わが国の領土問題」（北方領土、竹島、尖閣諸島）/特設ページ「日本人拉致問題」/巻末「わが国の領域」
育鵬社	国旗・国歌/主権国家/国際法/拉致問題/北方領土/竹島/尖閣諸島/沖ノ鳥島/特設ページ「日本の領土をめぐる問題」（北方領土、竹島、尖閣諸島）

(4)「よりよい社会を目指して」に関する学習

	内容
東書	持続可能な社会の形成者として/レポートテーマの設定/資料の収集と読み取り/考察/ レポートの完成/探究を社会参画につなげる
教出	私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう/テーマを選ぶ/表現方法の選択/テーマ設定の根拠/自分にとっての持続可能な未来とは/私の提案「自分を変える、社会を変える」をもとにした対話から持続可能な未来への思いや行動につなげる
帝国	持続可能な社会を目指して/課題を決めよう/資料を集めよう/考察しよう/レポートを書こう
日文	持続可能な社会をめざして/テーマの設定/資料の収集と読み取り/考察と構想/まとめと評価
自由社	レポートと卒業論文をつくろう/行ってみたい国を調べ紹介するレポートをつくってみよう/「持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるのか」を考え、「卒業論文」を作成してみよう/課題の探求 ディベートをしてみよう
育鵬社	よりよい社会への思いや願いをかたちにしよう/テーマを決めよう/課題探求の計画を立てよう/プレゼンテーションしよう/内容の見直し/レポート作成 私は内閣総理大臣「国づくり計画書」を作成

社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解できるようにするため、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどの地理的技能を身に付けられるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○社会的事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察したり、諸課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○地図や統計などに平素から親しみ、課題の追究・解決のための教材として効果的に活用する意欲を育むために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <p>○多様な視点に着目し、課題を追究したり解決したりする活動が展開できるようにするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○作業的・体験的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料を活用しやすいように、検索にどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○学習効果を高めるために、表記・表現にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○読み取りやすいように地図中の地名表記や彩色・配色、土地利用や等高線などに、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

書名 項目	<h1>新しい社会 地図</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の概観に役立つ、自然・産業・人口などの主題図を「基本資料」という形で設けることで、基礎的・基本的な知識を習得しやすいように工夫されている。 ○地域の特徴的な事象を「注目したい記号」という形で示すことで、地図の読み取りなどの地理的技能を身に付けられるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地理的分野の諸地域学習での課題解決的な学習に活用できる資料が、多数取り上げられている。 ○要所にキャラクターのふきだしを入れることによって、「社会的な見方・考え方」の視点をもたせ、思考をより深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図に親しみをもち、活用しやすくするために、鳥瞰表現の地図を掲載したり、地域の特産物をイラストで表したりすることで視覚的に読み取れるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州や日本の各地方ごとに、教科書にはない補充資料を掲載したり、関連する地図や資料を閲覧できるように、デジタルコンテンツに接続するための「二次元コード」を掲載したりするなど、主体的に学習がすすめられるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○地理の教科書との連携を強化し、人口ピラミッドの作成や地形図の読み取りなどの学習に必要な資料が掲載されている。 ○世界、日本、統計、さくいんでインデックスを大きく色分けし、さらに世界は州、日本は地方ごとに細かく色分けされている。 ○世界の各州や日本の各地方に関連する地図や資料を閲覧できるデジタルコンテンツに接続するための二次元コードを掲載している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォント（ゴシック体）を使用している。 ○基本図で示した地域を位置図で示している。 ○折り込みページを設け、地図記号を確認しやすくしたり、巻頭で地図の見方を示すとともに、資料の見方や他分野での活用方法を掲載するなど、地図が使いやすくなるように工夫されている。 ○歴史的分野や公民的分野に関連するページを設け、分野の枠を超えた「社会的な見方・考え方」をもとに、学習テーマを深められるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州を同一縮尺の3枚の地図（P29、P61、P67）で表し、地球儀の代わりに使用できるように工夫されている。 ○防災に関する地図や資料が掲載され、防災への意識が高められる一方で、防災をテーマとした学習を深められるようになっている。 ○歴史的分野や公民的分野に関連するページを増やして、3年間の社会科の学習全体で活用できるように工夫されている。 ○写真やグラフ等、地図以外の資料を充実させるとともに、巻末に資料索引を設けるなど、資料を活用した学習が主体的にすすめられるように工夫されている。 	

書名 項目	<h1>中学校社会科地図</h1>	4 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 帝 国 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○土地の高さによる色分けと、土地の使われ方による色分けを併用することで、地域的特色がつかみやすいように工夫されている。 ○要所に配された問い「地図活用」から、地図の読み取りなどの地理的技能を身に付けられるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○比較を通して地域の特色が考察できるように、自然や人口などの主要素をまとめた資料図は、縮尺が統一されている。 ○「社会的な見方・考え方」の視点に着目して、問い「地図活用」を要所に配置することで、思考をより深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地図に親しみを持ち活用しやすくするために、世界の各州の鳥瞰表現の地図を掲載したり、特産物をイラストで表したりするなど、視覚的に読み取れるように工夫されている。 <p><課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州や日本の各地方ごとに、多くの資料図を同一縮尺で掲載したり、関連する動画を閲覧したりできるように、デジタルコンテンツに接続するための「二次元コード」を掲載するなど、主体的に学習がすすめられるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身に付けられるコーナーが設けられている。 ○左上にタイトル、左右上にページ番号、右端にインデックスが配置され、レイアウトの統一（構造化）がなされている。 ○世界の各州や日本の各地方ごとに、主体的な学びを助ける様々なコンテンツに接続するための二次元コードを掲載している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○基本図は等高段彩表現にレリーフ（陰影）表現を合わせた立体感のある地図表現であり、文字も読みやすいUDフォント（丸ゴシック体）を使用している。 ○基本図で示した地域を位置図で示し、同緯度・同縮尺の日本を示している。 ○折り込みページを設けて地図記号を確認しやすくしたり、巻頭の「地図帳の使い方」に多くのページを割いて、内容を丁寧に解説するなど、地図が読みやすくなるように工夫されている。 ○基本図や資料図に「地図活用」を示し、読図等の技能が身に付くだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習につながるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○大判化されたことで地図をより広域に表せるようになり、他州や他地方とのつながりを捉えやすくなっている。 ○防災に関する地図や資料が掲載され、防災への意識が高められる一方で、防災をテーマとした学習を深められるようになっている。 ○五街道を表す鳥瞰図を示したり、日本の統計資料に少子高齢化を表す項目を設けるなど、歴史的分野や公民的分野でも活用できるように工夫されている。 ○多くのページに設けられた「地図活用」の「問い」を追究することで、「社会的な見方・考え方」が身に付けられるようになっている。 	

社会科（地図） 調査資料 2

○内容別ページ数・地図数

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
地域構成（世界）	3	3	0	0	1	1	1	1	3	5
地域構成（日本）	3	5	0	3	2	2	1	9	0	0

【世界の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
世界各地の人々の生活と環境	20	10	76	66	1	1	0	0	33	13
アジア	20	23	44	35	5	6	3	5	27	44
ヨーロッパ	12	11	10	10	3	3	0	0	19	26
アフリカ	5	4	3	3	1	1	1	0	10	11
北アメリカ	9	8	8	4	2	2	2	1	15	18
南アメリカ	4	5	2	5	2	2	0	0	9	11
オセアニア	6	4	0	3	2	1	0	3	11	7
その他	0	3	0	1	0	2	0	4	0	1

【日本の様々な地域】

内容	ページ数		写真の数		基本図の数		部分図の数		資料図の数	
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
九州地方	9	7	11	0	2	2	14	6	12	15
中国地方	4	4	1	1	3	3	2	2	9	11
四国地方	4	4	1	0	3	3	0	0	8	10
近畿地方	8	10	4	2	2	2	5	4	5	17
中部地方	8	12	1	8	3	5	1	2	13	18
関東地方	12	12	20	7	3	3	5	3	18	23
東北地方	5	5	10	0	1	1	1	2	6	14
北海道地方	9	9	2	0	3	3	3	3	9	13

【日本の地域的特色と地域区分】

内容	ページ数		写真の数			
	東書	帝国	東書	帝国	東書	帝国
自然環境	6	6	19	13		
人口	2	2	0	1		
資源・エネルギーと産業	6	6	11	4		
交通・通信	4	2	4	0		
生活・文化等	1	4	14	35		
世界の統計表	5.5	5	統計表の項目数		11	11
日本の統計表	4.5	4	統計表の項目数		9	9
索引	11	12	※総ページ数には中表紙等も含まれるため合計と一致しない。			
総ページ数	192	188	※総ページ数は目録に記載されたページ数			

【日本の諸地域の考察の仕方に関する資料数】

内容	資料数	
	東書	帝国
自然環境	17	18
人口や都市・村落	8	9
産業	19	24
交通や通信	12	7
その他の事象	2	11

※「一般図」のうち、1ページ以上のサイズのものを「基本図」とし、それ未満のものを「部分図」とした。

※「鳥瞰図」と資料図をまとめて「資料図」とした。

※統計については、表題のあるものを数えた。

数学科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解できるようにするために、どのような工夫が見られるか。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができるようにするために、どのような工夫が見られるか。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学を活用して事象を論理的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養うために、どのような工夫が見られるか。 <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動を通して、上記3つの観点で示された資質・能力をバランスよく育成するために、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵・写真・図表等の扱いに、どのような工夫が見られるか。 ○学習効果を高めるために、統計資料等には、どのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見やすいレイアウトや読みやすい表現にするために、どのような工夫が見られるか。 ○記号、用語、単位等の表現には、どのような工夫が見られるか。 	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">新しい数学</h1>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 小中接続を意識して、中学校1年生に「0章 算数から数学へ」を設けている。章の学習では、「例」と似た問題に「◆」マーク、典型的な誤答を「×まちがい例」、既習事項の再確認を「ちょっと確認」で取り上げている。節末「基本の問題」、巻末「補充の問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 「深い学び」は右ページにあり、次のページの考えが見えないように工夫されている。「数学マイノート」では、思考の過程や振り返りの記述例を示している。巻末「大切にしたい見方・考え方」では、問題解決の進め方とともに発表の仕方や聞き方、振り返りや、学びを深める視点などが分かるように工夫されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 節の最初に、学習への意欲を高めるための導入課題が設定されていて、身の回りの問題を解決する活動から学習につながるように工夫されている。節末「数学のまど」では、学習に関連した読み物や問題を掲載している。章末「学びをひろげよう」では、社会で数学を活用している人を紹介し、数学の有用性を実感できるように工夫されている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 「Q」では、自ら考えたり調べたりする活動を通して、新たな知識・技能が身に付くように工夫されている。「深い学び」では、問題発見・解決の過程を意図した活動が示されている。章末「学びをひろげよう」では、「アーティスト」、「気象予報士」など実社会で活用している数学を紹介している。「時差」、「光」、「AED」など他教科の学習と関連した内容が、マークと教科名で示されている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「車いすマラソン」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「D」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○見通しをもって学習を進めるために、「学習課題」は黄色の枠で、解決すべき問題を示した「Q」は緑の枠で囲まれ、それぞれゴシック太字で強調されている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。 	
総 括	<p>巻頭で「この本の使い方」、「大切にしたい数学の学び方」、「ノートの作り方」が掲載されている。章の導入には、主体的な学びのために「章とびら」や「学習課題」と「Q」が設けられている。章末には、数学のよさを実感できるように、社会で数学を活用している人を紹介する「学びをひろげよう」が設けられている。巻末には、深い学びを振り返ることができるように、「大切にしたい見方・考え方」が設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>数学の世界</h1>	4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大日本</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 章の学習内容を「活動」、「例」、「例題」、「Q」で身に付け、「プラス・ワン」で補充することができるように構成されている。「補充問題」では、自主的に取り組める問題を設けている。節末「たしかめよう」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」では、問題発見・問題解決の流れ、数学的な見方・考え方が示されている。節内には、他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、ひろげたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 導入では、新しい学習への興味・関心を引き出すように、身近な題材が扱われている。また、数学の面白さや楽しさを味わえるように、読み物「MATHFUL」が設けられている。巻末「課題学習」、「活用・探究」では、各章の学習を総合したり、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けたりする課題を取り上げている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 巻頭「数学の世界へようこそ」で問題発見・問題解決の流れを示し、見いだした問題の解決の仕方が身に付くように工夫されている。また、「ノートの作り方」では、学習を振り返ることができるノートの書き方の工夫が紹介されている。章末「社会にリンク」では、仕事の中の数学を紹介している。巻末「課題学習」では、各章の学習を総合したり、生活や他教科の学習に関連したりする問題を扱っている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○6人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○学習を始める手がかりとなる問題として「考えよう」が、学習のめあてとして「めあて」がゴシック太字で示されている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、必要に応じてルビが振られている。 ○右ページ外側に節ごとのインデックスがあり、内容領域で色分けされている。 	
総 括	<p>巻頭で「この教科書の使い方」、「数学の世界へようこそ」、「ノートの作り方」が掲載されている。各章に1か所ずつ、問題発見、問題解決の流れが示されている。本文や章の終わりには、家庭学習に取り組めるように、「力をのばそう」、「活用・探究」、「社会にリンク」などが設けられている。巻末には、生活や学習との関連を図るために、「課題学習」、「MATHFUL」などが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校数学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 「Q」では生徒キャラクターの対話を、「例」では適宜ノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を通して基礎・基本を身に付けられるように工夫されている。「問」では適宜「正しいかな？」を設け、誤りやすい箇所を示している。節末「確かめよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭「教科書の使い方」で数学的な見方・考え方が示され、「Q」では、それらの用例を提示している。章末「深めよう」、巻末「疑問を考えよう」では、領域横断、教科横断的な学習に取り組むことができるように工夫されている。巻末「表現する力を身につけよう」では、発表の仕方やレポート例が示されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 章のとびらでは、新しい学習への興味・関心を引き出すための身近な題材が扱われている。章末「できるようになったこと」で自己評価し、「さらに学んでみたいこと」を自分の言葉で記入できるように工夫されている。章末「役立つ数学」では、身の回りで活用されている数学を取り上げている。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 各章の「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いをベースに考え、さらに新たな問題を発見する過程が見えるよう、ページの左側に学習過程を示し、対話的な学びが実現できるように工夫されている。本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ！」から「目標」を発見し、「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ！」とつながる構成となっている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「フェアトレード」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 単元の始めに導入課題としての「Q」がゴシック太字で、「目標」が鍵マークと枠囲みで示されている。 ○ 新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○ 右ページ外側に青色とピンク色のインデックスが章ごと交互にある。 	
総 括	<p>巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」、「ノートの使い方」、「単位の書き方」、「QRコードの使い方」が掲載されている。各領域のはじめに、既習事項をまとめた「ふりかえり」のページが設けてある。章の学習の中に「数学的活動のページ」が適宜設けられ、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が示されている。章末には「できるようになったこと」をまとめたページが設けられている。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ 問題形式で既習内容を確認する「学習する前に」が設けられている。節の学習は「Q」、「例」、「例題」、「たしかめ」、「問」により、理解を確かなものにするように構成されている。節末「基本の問題」、章末「学習のまとめ」、巻末「補充問題」では本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ 巻頭で「数学的な考え方」を紹介し、本文でそれらが具体的に示されている。各学年に1箇所「工夫してノートを書こう」のページを設け、思考力や表現力の基礎として、ノートを書く際のポイントが示されている。巻末「学んだことを活用しよう」、「総合問題」では、学んだことを活用する問題が設けられている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ 章のとびらでは、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を扱い、章の学習の必要性や数学の有用性に触れ、学びに向かうきっかけをつくるように工夫されている。章末「数学の広場」、「数学メモ」では、生徒が興味・関心を抱く課題や数学に関連する知識、数学の歴史的・文化的な話題などを掲載している。</p> <p>＜数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫＞ 学習のプロセスのページを適宜設け、問題発見・解決の数学的活動の一連のプロセスを体験することができるように工夫されている。章末、巻末の「学んだことを活用しよう」では、数学の事象の問題解決、統合・発展の問題が取り上げられている。巻末「数学の広場」では、「気象予報士」、「データアナリスト」など社会や職業の中で、数学が活用されている例を紹介した読み物が掲載されている。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○「ポリオワクチン支援」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○デジタルコンテンツが使える内容には「まなびリンク」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文には、UDフォントが使用されている。 ○章のはじめに、学習につながる課題「Let's Try」のページが、新しい学習のきっかけとして緑色丸囲み白抜きで「Q」が設けられている。 ○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。 ○左ページ番号脇に章が、右ページ番号脇に節が示されている。 	
総 括	<p>巻頭で「教科書の使い方」、「学習するにあたって」、「数学的な考え方」が掲載されている。章のはじめに、既習事項を振り返る「学習する前に」のページがある。章の学習の中に学習のプロセスのページが適宜設けられ、問題を見いだして解決し、振り返るプロセスが示されている。章末には章の基本的な学習内容を確認するための「学習のまとめ」が、巻末には1年間の学習を振り返る「学びのマップ」が設けられている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1 style="margin: 0;">未来へひろがる数学</h1>	<p>61</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 章の学習は「例」で理解し、「例題」を解き、学んだことがらを「問」で確認し、「練習問題」で深めるように構成され、類題を巻末「もっと練習しよう」に掲載している。章末「学びをたしかめよう」、巻末「もっと練習しよう」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 章のはじめの「ひろげよう」では、新しい学びがはじまるきっかけとなるように工夫されている。学習で働かせた数学的な見方・考え方をページの下部に虫眼鏡のマークで示し、いろいろな場面で活用できるように工夫されている。「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」では、学んだことを表現する活動ができるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 節のはじめに、興味・関心を引き出すための「学習のとびら」が設けられている。章末「数学ライブラリー」では、その章で学習した内容にまつわる読み物が掲載され、興味・関心を高めるように工夫されている。巻末「学びをいかそう」では、日常生活や社会、他教科と数学との関わりを考えることができる題材が扱われている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 章のはじめは、日常の事象から新しい学習のきっかけとなる問題を設定する場面が多くなっている。章の中盤には、数学の事象から問題を見だし解決する場面が多くなっている。学んだことを表現する力を身に付けるために、「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」を章の学習の途中に設けている。巻末「学びをいかそう」では、学んだことを利用したり、深めたりすることができる題材が設けられている。</p>	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「AEDと救命率」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容にはQRコードが付けられている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 節の学びがはじまる場面は「節のとびら」で、新しい学びのきっかけとなる問題は「ひろげよう」のマークで示されている。 ○ 新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は茶色枠で囲われている。 ○ 右ページ外側に章ごとのインデックスが茶色で示されている。 	
<p>総 括</p>	<p>学校の授業での学びを想定し、表紙からはじまる「みんなで学ぼう編」と、生徒の興味・関心に応じ、さらに力を伸ばす学びを想定し、裏表紙からはじまる「自分から学ぼう編」の2編で構成されている。巻頭で「構成」、「使い方」、「ノートのかふう」が掲載されている。学んだことがらにまつわる読み物として「数学ライブラリー」や、学んだことを役立てて解決する課題「学びを生かそう」が設けられている。</p>	

数学科調査資料 1 - 6

<p>書名 項目</p>	<p>日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学 探求ノート</p>	<p>104 数 研</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 各章の前や本文中に既習事項をまとめた「ふりかえり」が設けられている。節末「確認問題」、巻末「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。章末「問題A」、「問題B」は、習熟度に応じてさらに取り組むことができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」による問いでは、答えを求めるだけでなく、説明する問いかけを多くしたり、対話によって数学的な見方・考え方を可視化したりしている。別冊「探究ノート」では、探究心をのぼす題材で、数学的な見方・考え方を働かせ、問題発見・問題解決の力が高まるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 巻頭に学び方のガイダンスとして、「学習の進め方」、「ノートの作り方」、「レポートの書き方」が設けられている。本冊内の章の学習や、別冊「探究ノート」内の「課題学習」では、身の回りの課題を解決する機会を設けることで、数学の有用性を感じられるように工夫されている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 本冊の「Q」や「TRY」では、生徒に考えさせるよう問いかけ、数学的活動を効果的に取り入れるように工夫されている。巻末では、社会で活用されている数学を紹介している。「数学に関係する英単語」、「天体」、「世界遺産」など、他教科の学習と関連した内容が示されている。別冊「探究ノート」は、本冊で学んだ内容から新たな疑問や課題を見だし、数学的活動を通して主体的に解決を目指す構成となっている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。</p> <p>○「PM2.5」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。</p> <p>○デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文には、UDフォントが使用されている。</p> <p>○活動を通して解決する課題を「TRY」マークで、学習の中で大事にしたい問いかけを「Q」のマークで示している。</p> <p>○新しい用語はゴシック太字で示され、ルビが振られている。</p> <p>○右ページ外側に節ごとのインデックスが青で示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>巻頭で「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートの作り方」が掲載されている。章のはじめには、左ページには既習事項「ふりかえり」が、右ページには学びのきっかけになる章のとびらが設けられている。章末には、生活や学習との関連を図るために、「やってみよう」、「調べよう」などが設けられている。別冊「探究ノート」があり、探究的な内容や課題学習、ワークシートが掲載されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学数学</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> 章のはじめに「次の章を学ぶ前に」で、既習事項を確認できるように工夫されている。節の学習は、「Q」、「例」、「問」で構成されていて、基礎・基本の定着のために「まちがえやすい問題」が設けられている。節末「基本の問題」、巻末「補充問題」では、本文参照ページが示され、振り返りができるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 巻頭「数学的な見方・考え方を身につけよう！」では、数学的な見方・考え方を働かせながら学ぶことについて説明されている。各小節では、「大切な見方・考え方」で、それぞれの学習場面で働かせる数学的な見方・考え方が示されている。章末には、記述する力を高める問題として「説明できるかな？」が設けられている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 生徒キャラクターの言葉で学ぶ意欲を引き出す工夫をしている。章のとびらでは、章の学習への動機付けをする場面が設けられている。章末「数学のたんけん」、巻末「数学を仕事に生かす」、「暮らしと数学」、「数学研究室」では、数学への興味が高まるように、学習内容に関連したコラムや課題が扱われている。</p> <p><数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成するための工夫> 日常や社会の事象「身近なことがら」及び数学の事象「数学のことがら」を扱う数学的活動を示した「学び合おう」を適宜掲載している。「学び合おう」の授業展開の後半には、友達の考えと同じところはないか、よりよい解決方法はないかなどを話し合い、より深い理解を得る「話し合おう」が設けられている。巻末「数学マイトライ」では、実社会で活用されている数学を紹介している。</p>	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4人の中学生キャラクターたちが身近な問題場面に直面して、対話しながら多様な考え方や気づきを促すように工夫されている。 ○ 「空き缶リサイクル」など持続可能な社会を見据えた資料を取り上げている。 ○ デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文には、UDフォントが使用されている。 ○ 小節の始めに「めあて」をオレンジ色のゴシック太字で、導入課題「Q」を緑色丸囲み白抜きで示している。 ○ 新しい用語はゴシック太字でルビが振られている。説明は水色枠で囲われている。 ○ 右ページ外側に章ごとのインデックスが青と緑が交互に示されている。 	
総 括	<p>巻頭で、「この本の使い方」、「数学の学習を始めよう!」、「数学的な見方・考え方を身につけよう!」、「ノートのかふう」が掲載されている。章のはじめには既習事項を確認する「次の章を学ぶ前に」が設けられている。活用の場面では、切り取って使用する「対話シート」が設けられている。章末の「数学のたんけん」、巻末の「数学マイトライ」では、生活や学習との関連が図られている。</p>	

数学科 調査資料2

○分量について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総ページ数	1年	312	324	316	332	336	362	324
	※目録に記載された ページ数	2年	250	250	270	280	264	304	254
		3年	284	302	310	306	320	370	296
2 領域別 ページ数	A 数と計算	1年	101	112	117	118	102	108	110
		2年	48	54	59	54	48	54	50
		3年	84	90	89	90	80	82	78
	B 図形	1年	68	74	66	72	68	68	60
		2年	64	70	70	80	64	66	66
		3年	82	82	91	86	82	88	76
	C 関数	1年	40	40	38	37	34	34	40
		2年	38	32	38	34	36	36	36
		3年	34	34	37	32	30	32	34
	D データの活用	1年	24	26	30	24	26	25	34
		2年	34	32	36	39	26	29	30
		3年	14	18	18	17	16	17	16
	課題学習等	1年	79	72	65	81	106	127	80
		2年	66	62	67	73	90	119	72
		3年	70	78	75	81	112	151	92

○領域別教材数等について

内容		学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
1	総単元数 (章の数)	1年	8	7	7	8	7	7	7
		2年	7	7	7	7	7	7	6
		3年	8	8	8	8	8	8	8
2 領域別 教材数	A 数と計算	1年	4/10/22	3/12/36	3/8/20	4/11/27	3/7/19	3/9/23	3/9/38
		2年	2/4/8	2/6/17	2/4/9	2/4/10	2/4/7	2/4/10	2/4/18
		3年	3/8/17	3/8/30	3/7/17	3/8/19	3/7/15	3/7/18	3/7/27
	B 図形	1年	2/6/13	2/8/30	2/4/10	2/7/13	2/5/11	2/5/12	2/6/20
		2年	2/5/12	2/5/25	2/4/11	2/5/15	2/4/12	2/5/13	2/4/22
		3年	3/7/14	3/9/32	3/7/16	3/8/16	3/8/13	3/6/16	3/6/25
	C 関数	1年	1/4/9	1/4/13	1/4/6	1/4/7	1/4/7	1/3/7	1/4/14
		2年	1/4/9	1/3/9	1/3/6	1/3/7	1/3/6	1/3/7	1/3/12
		3年	1/3/5	1/2/10	1/2/5	1/3/5	1/3/6	1/2/5	1/12/11
	D データ の活用	1年	1/3/4	1/3/9	1/2/4	1/2/6	1/2/3	1/2/4	1/2/9
		2年	2/3/4	2/4/8	2/2/5	2/3/5	2/2/5	2/3/5	1/2/9
		3年	1/1/2	1/2/6	1/1/3	1/2/3	1/1/3	1/1/2	1/1/4

○日常生活や社会のできごとなどを取り扱った例（下記の用語は教科書の表記による）

東 書	1年：待ち時間の予想はできるかな？（比例と反比例） 2年：くじを先に引く？あとに引く？（確率） 3年：渋滞学を学んでみよう（関数 $y=ax^2$ ）
大日本	1年：海外に住む友だちと交流しよう（数の世界のひろがり） 2年：どちらの電球を買う？（1次関数） 3年：パスタメジャーを作ろう（相似と比）
学 図	1年：震源までの距離は？（比例と反比例） 2年：CT スキャンと数学（連立方程式） 3年：丸太からとれる角材は？（平方根）
教 出	1年：気象予報士（正の数，負の数） 2年：輸送計画担当者（1次関数） 3年：都市模型製作者（相似な図形）
啓林館	1年：何分発のバスに乗る？（データの活用） 2年：AEDの重要性がわかるグラフ（一次関数） 3年：魚の数を調べるには？（標本調査とデータの活用）
数 研	1年：降水確率（データの活用） 2年：誕生日が同じ日である人がいる確率（確率） 3年：山頂から見渡せる距離（三平方の定理）
日 文	1年：暗号と素因数分解（正の数と負の数） 2年：1970年の大阪万博の入場者数（データの分析と確率） 3年：風の力（関数 $y=ax^2$ ）

理科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付くようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動が充実するために、どのような工夫がされているか。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○理科で学習する規則性や原理などが日常生活や社会で活用されていることに気付かせたり、各教科と関連する内容や学習時期を捉えやすくしたりするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真、図表などの位置と本文との関連に、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○記号、用語、単位などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階に応じてどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい科学</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○ 各節に「課題」「課題に対する結論を表現しよう」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け図や写真を用いて示し、観察・実験の前及び巻末資料に「基礎操作」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ 観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭のマンガや各節ごとのフローチャートで探究の進め方を示している。更に、各節の結論などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○ 巻頭で探究の流れを示し、その中で教科書の使い方を説明している。「科学のミカタ」や「学びをいかして考えよう」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、生命の尊さや自然環境の大切さについて生徒自らが考える場面を設け、環境問題に関心をもてるようにしている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <p>○ 探究の過程がマークと脚注のフローチャートで示されており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題発見」「構想」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <p>○ 「つながる科学」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。算数・数学、社会、保健体育、技術・家庭、道徳科で学習した内容について、「〇〇で学ぶこと」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○ 日常生活や社会との関連がわかる「つながる科学」や科学技術を紹介した「from Japan 世界につながる科学」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○ 動画による内容解説や練習ドリル、他教科との関連などを示した、WEBサイトを活用したデジタルコンテンツ（Dマークコンテンツ）の資料がある。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○ マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、領域ごとに課題や実験などを色分けして表示している。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○ 巻頭で探究の流れや教科書の使い方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた配置となっており、生徒の科学的概念の形成に配慮されている。</p> <p>○ 単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」「確かめと応用 活用編」を示している。</p> <p>○ 巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。巻末に自分で組み立てる地学単元のペーパークラフトが付けられている。</p>	

書名	<h1>理科の世界</h1>	4 大日本
項目	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○ 各節（各項目）に課題が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順を図や写真を用いて示し、観察・実験の近くや巻末資料の「基本操作」があり、ウェブコンテンツ動画も設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ 観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「理科の学習の進め方」で探究の流れや方法を示している。更に「振り返ろう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○ 巻頭で理科の学習の進め方を示し、その中で教科書の使い方を説明している。「問題を見つけよう」や「やってみよう」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然環境に関する資料に「環境マーク」を付け、環境問題に関心がもてるようにしている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <p>○ 探究の過程がマークで示され、重点項目は色分けされており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題を見つけよう」「計画を立てよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <p>○ 「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、算数・数学、美術、保健体育、技術・家庭、英語で学習した内容について、「つながる」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</p>	
資料	<p>○ 日常生活での科学を紹介した「くらしの中の科学」、「Science Press」や職業を紹介した「Professional」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○ 専用アプリ「COCOAR2」のARを用いた動画による内容説明、補助説明やシミュレーションなどを示した、WEBサイトを活用したデジタルコンテンツがある。</p>	
表記・表現	<p>○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて表記している。</p> <p>○ マークやキャラクターのコメント・会話をを用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で課題や実験などの色を統一して表示している。</p>	
総括	<p>○ 巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などを示している。単元配列は、小学校との関連を重視した配置となっており、観察・実験のしやすい時期や、学年による理科室使用の重なりなどに配慮されている。</p> <p>○ 単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」を示している。</p> <p>○ 巻末には「自由研究」「基本操作」などがまとめられている。3年巻末の「学習のまとめ」では、1～3年の復習ができるようになっている。</p>	

書名 項目	<h1>中学校科学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間ごとに「この時間の課題」「この時間のまとめ」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末のQRコード教材で、重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順を写真を用いて示し、観察・実験の近くに「基本操作」を設けている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「理科のトリセツ」で探究の進め方や方法を示している。更に、「しっかりふり返り」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「理科のトリセツ」の中で、理科の学習の進め方と教科書の使い方を説明している。各章の始めと終わりに「Can-Do List」があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、「Can-Do List」に生命尊重や環境保全の話題を掲載し、環境問題に関心をもてるようにしている。 <p>＜科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究の過程がマークで示され、マークが矢印でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「気づき」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「資料」において日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、数学、技術で学習した内容について、「つながり・○○」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学と関連した働く人を紹介する「ミッション X」や、日常生活の科学や歴史を紹介した「サイエンスカフェ」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○ 動画による内容解説やプログラミング教材、練習問題を示した、QRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。 ○ マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で見出しや実験などの色を統一して表示している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などを示している。単元配列は、想定する年間指導計画に沿って系統的に配置されており、初任の教師が構成を理解しやすいように配慮されている。 ○ 単元末に「学びの深め方」「読解力問題」を示している。 ○ 巻末の内容は学年ごとに異なり、「実験器具の操作」「周期表」などがまとめられている。巻末にホワイトボードとして使えるアイデアボードが付けられている。 	

書名 項目	自然の探究 中学理科	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○ 各節に「課題」「結論」が示されている。各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け、図や写真を用いて示し、観察・実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「探究の進め方」で、探究の流れや方法を示している。更に、「活用しよう」や「考えよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○ 巻頭で探究の進め方を示し、その中で理科の学習の流れを説明している。「やってみよう」や「チャレンジ」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然保護や生命尊重に関わる内容を「ハローサイエンス」で紹介し、環境問題に関心がもてるようにしている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○ 探究の過程がマークで示され、紙面の両端に色帯が付けられており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○ 「ハローサイエンス」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。算数・数学で学習した内容について、「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</p>	
資 料	○ 科学技術と社会生活、自然、歴史、職業との関わりを示した「ハローサイエンス」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○ 動画による補足説明や科学に関する情報を示した、QRコードを活用したデジタルコンテンツ（まなびリンク）の資料がある。	
表記・表現	○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は色を変えて振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。 ○ マークやキャラクターのコメント・会話をういて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で課題や実験などの色を統一して表示している。	
総 括	○ 巻頭で理科を学ぶ意義や探究の進め方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や学習内容のつながりを考慮した配置となっており、地域や学校の実態に応じた指導計画を立てられるように配慮されている。 ○ 単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」を示している。 ○ 巻末には「学年末総合問題」「基礎技能」などがまとめられている。巻末に実習や観察で用いる厚紙のカードやシートが付けられている。	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">未来へひろがるサイエンス</h1>	6 1 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○ 各節に課題が示されている。QRコンテンツや各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末、QRコンテンツで重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け、図や写真を用いて示し、観察・実験の近くに「観察・実験のスキル」やQRコンテンツの動画を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻末の「探Qシート」を用いて、探究の進め方や方法を示している。更に、「探Q実験」や「探Q実験」、「表現してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○ 巻頭で探究の過程を示し、その中で教科書の使い方を説明している。各単元に一つ「探Q実験」を設定し、巻末の「探Qシート」を活用して主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然環境に関する題材に「環境マーク」を付け、環境問題に関心がもてるようにしている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <p>○ 探究の過程がマークで示され、マークが帯でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」「考えてみよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <p>○ 科学コラム「○○ラボ」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、社会、算数・数学、家庭、英語で学習した内容について、「○○と関連」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</p>	
資 料	<p>○ 科学と部活、職業、食生活、自然との関連を示した「科学コラム」や、科学史に関する話題を示した「科学史」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○ 動画による内容説明、既習内容や学習内容の確認を示したQRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。</p>	
表記・表現	<p>○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○ マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、領域ごとに実験などを色分けして表示している。</p>	
総 括	<p>○ 巻頭で探究の過程や教科書の使い方などを示している。単元配列は、同一学年内での単元指導順序の入れ替えが自由に行えるような配置になっており、2学期制や3学期制にも対応できるように配慮されている。</p> <p>○ 単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」を示している。</p> <p>○ 巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」などがまとめられている。巻末に各単元の「探Qシート」が付けられている。</p>	

理科 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	272	294	274	320	316
	2年	322	318	290	338	332
	3年	338	374	282	376	364
2 個人研究課題等の例示数	1年	15	8	2	7	5
	2年	16	8	2	4	5
	3年	15	8	2	4	5

○領域別教材数等について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	
1 小単元数	1年	13	14	12	16	13	
	2年	15	14	12	14	15	
	3年	17	18	12	21	19	
2 領域別観察・実験等数	1年	身近な物理現象	6	5	8	6	6
		身の回りの物質	7	5	6	7	7
		いろいろな生物とその共通点	6	6	4	5	3
		大地の成り立ちと変化	5	7	6	5	5
	2年	電流とその利用	7	9	9	7	9
		化学変化と原子・分子	9	9	9	7	8
		生物の体のつくりと働き	10	9	9	8	7
		気象とその変化	4	4	6	3	5
	3年	運動とエネルギー	6	6	12	6	8
		化学変化とイオン	8	7	9	6	7
		生命の連続性	3	3	5	2	2
		地球と宇宙	7	5	7	5	5
		科学技術と人間、自然と人間	5	1	2	4	4

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 読み物などの資料数	1年	32	47	10	39	38
	2年	55	70	4	52	50
	3年	57	55	8	54	54
2 埼玉県に関する資料 (写真・図)の数	1年	2	4	3	2	2
	2年	1	2	3	2	4
	3年	6	1	3	3	0

○日常生活や他教科等との関連についての記載の例

	記載の数	特徴的な例
東書	67	身のまわりは岩石であふれている(1年)さびを防ぐくふう(2年) 雨のしずくは、どこまで速くなる?(3年)
大日本	74	万葉集から見る植物(1年)くらしを支えるセンサー技術(2年)歴史と天文学(3年)
学図	27	意外と身近にある有毒な気体(1年)食品の酸化を防ぐ=劣化を防ぐ(2年) 3力のつりあい(3年)
教出	41	牛乳は水溶液か?(1年)不完全燃焼(2年)情報モラル(3年)
啓林館	48	こおらせたスポーツ飲料(1年)野菜や果物の消化酵素(2年)地球の自転と時刻(3年)

音楽科（一般）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○歌唱教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。 ○創作教材の選択において、無理なく取り組ませるためにどのような工夫が見られるか。</p> <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していかうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。 ○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">中学音楽 音楽のおくりもの</h2>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「指揮をしてみよう」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。 ○「Let's Sing!」では、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して表現するための解説が示され、教科書に書き込みながら学習できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の「ACTIVE!」、「Let's Sing!」では、曲の要素や雰囲気について直接書き込み、 思考が深められるよう工夫されている。 ○各学年の「どんな特徴があるかな?」では、曲の特徴を言葉で表現し、話し合う構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話し合おう」では、音楽表現を主体的に工夫する過程を重視した具体的な内容が取り上げられ、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では、楽曲分析の手順やヒントが示されており系統的・発展的に学べるよう工夫されている。 ○創作教材では、テーマやことばをリズムと関連付け、まとまりのある作品ができるように工夫されている。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「私たちのくらしと音楽」では、アウトリーチ、教育活動、音楽療法について取り上げ、意識的に音楽の意味や価値について考えることができるように工夫している。 ○MP3や著作権について示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞教材では、特徴を理解するための書き込み欄や対比表を使い、考えるポイントが掲載されている。 ○巻末では、様々な音楽や楽器の説明が、写真を加え整理して掲載されている。 ○二次元コード「まなびリンク」には、教科書の内容にリンクした動画や音声等が準備されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されている。発展として「音ってなあに」、「音の三要素」が掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学びのユニット」で年間の学習内容を関連付けて示している。 ○様々な音楽について比較して学習し、共通性と固有性を考え、音楽文化の理解を深める工夫がされている。 	

書名 項目	<h1>中学生の音楽</h1>	27 教 芸
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達段階に応じて習得できるように工夫されている。 ○「My Voice」では、発達段階に応じた歌い方が紹介されている。また、民謡・長唄では、絵譜を使って発声の特徴が示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材では音楽を知覚する際の焦点が示されている。また、各学年の「音楽を形づくっている要素」では、教材の譜例と要素が説明されている。 ○「深めよう！音楽」では、どのように演奏したいのか言葉で表現し、書き込めるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「深めよう！音楽」では、音楽表現を主体的に工夫する過程を重視した具体的な内容が取り上げられ、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では、曲の構成を細かく分析できるような表を使い、創意工夫を生かせるように配慮されている。 ○創作教材「My Melody」では、個の基礎力を習得し、「Let's Create!」では、協働的な創作活動を体験し、発展的な学習ができるように工夫されている。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活や社会の中の音楽」では、音楽の役割、アウトリーチ、仕事と音楽等を取り上げ、意識的に音楽の意味や価値について考えることができるように工夫している。 ○音楽メディアの変遷や著作権等を示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材のページに学習目標・音楽を形づくっている要素が示されている。 ○「社会を映し出す音楽」「耳でたどる音楽史」等の資料では、実際に音で確認ながら全体をイメージできるように工夫されている。 ○QRコードが示されている教材では、動画や音声などの情報を視聴、閲覧することができる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典資料が掲載されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学びの地図」で年間の学習内容が見通せるように示している。 ○中学生が地元の祭や芸能に携わる場面を紹介し、郷土の音楽文化を継承していこうとする態度の育成のための工夫がされている。 	

音楽科（一般） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	92	98
	2・3年上	92	98
	2・3年下	92	98

○学習活動別教材数について

内容	学年	教出	教芸
1 楽譜の付いた表現（歌唱）教材の数	1年	19	25
	2・3年上	18	22
	2・3年下	18	18
2 表現（創作）教材の数	1年	2	3
	2・3年上	2	3
	2・3年下	2	2
3 主となる鑑賞題材の数	1年	6	7
	2・3年上	9	7
	2・3年下	9	9
4 例示している鑑賞教材の数 ※ 民謡等はそれぞれカウント ※ 作曲家紹介や年表等の楽曲は除く	1年	49	72
	2・3年上	31	64
	2・3年下	18	76

○その他

内容	学年	教出	教芸
我が国や郷土の伝統音楽の扱い（埼玉の伝統音楽の扱いも含めて）	1年	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、埼玉県はなし）「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」を表現活動で取り上げている。 箏と尺八を取り上げ、箏では表現活動につなげている。 アジアと日本の声による様々な表現を写真と共に紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介「秩父音頭」）「ソーラン節」について、演奏者からのアドバイスが記載されている。 雅楽と箏曲が取り上げられ、「越天楽」の唱歌の体験コーナーがある。 アジアの諸民族の音楽が、日本との聴き比べの視点とともに示されている。
	2・3年上	<ul style="list-style-type: none"> 雅楽と能が取り上げられ、唱歌と謡の体験コーナーがあり、演奏のポイントが記載されている。 日本各地の音楽や芸能について取り上げ、写真と共に特徴が示されている。秩父夜祭が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と文楽が取り上げられ、長唄と義太夫節の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。 日本各地に伝わる郷土の祭や芸能とその特徴が、写真で示されている。（秩父祭の屋台行事と神楽）
	2・3年下	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と文楽が取り上げられている。歌舞伎では、長唄の体験コーナーがある。 西洋の音楽と日本の音楽を比較して鑑賞するコーナーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 尺八、能が取り上げられ、謡の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。 郷土の祭や芸能が、中学生が受け継ぐという視点で示されている。久喜市の鷲宮催馬楽神楽を扱っている。

音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「何が同じで、何が違う？」では、音の特徴と楽器の構造や奏法との関係について気付いたことを書き込めるようになっている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○学習のねらいをスタート、まとめの曲をゴールとして、基礎的な学習から段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材も5つ用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○巻頭ページの口絵には、箏と篠笛の家元から中学生へのメッセージを掲載し、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のための工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○「何が同じで、何が違う？」のコーナー等で、課題や学習方法が掲載されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○「まなびリンク」として、範奏動画の視聴、別途資料がダウンロードできるよう二次元コードを掲載している。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
総 括	<p>○口唱歌を取り入れた学習により、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学生の器楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 芸</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「深めよう！音楽」では、イラストの吹き出しがその曲の特徴について説明し、思考・判断につながる助言が示されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○教材には学習課題(ねらい)や、学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から練習できるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○各界の著名人からのメッセージや、同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考える工夫をしている。</p>	
資 料	<p>○巻末の図鑑では、様々な楽器を一覧で掲載し、打楽器のページには、たくさんの楽器についての奏法が、写真を入れて詳しく説明されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○学習資料として活用できる二次元コードが掲載されている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などでは、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
総 括	<p>○ソプラノリコーダーの楽曲数が拡充され、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

音楽科（器楽） 調査資料 2

○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	106	106

○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	19	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	13	23
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	7	18
4 扱っている和楽器の数	13	24
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	58	83
6 二重奏以上の合奏教材の数	36	30

○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。 ○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。 ○「まなびリンク」として、動画で演奏方法や発展内容が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○「日本音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。 ○「My Melody」として、箏を用いた創作が掲載されている。 ○二次元コードで、演奏家の紹介が掲載されている。

美術科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○創造的に表すことができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <p>○形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるような工夫が見られるか。</p> <p>○鑑賞において、自分の価値観をもって批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫が見られるか。</p> <p>○単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○制作過程や仕組み、材料や用具の安全な使い方などを理解できるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○題材の示し方や説明文には、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

書名 項目	<h1>美術</h1>	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入や作品解説、作者のコメントから、造形的な視点を理解できるよう、文章の工夫をしている。また、用語解説を別枠で提示するなどの工夫がある。 ○参考写真と制作の手順が記されている題材や、巻末の「学びの資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材において「発想や構想に関する目標」を示すとともに「学習のポイント」や発想・構想の方法、学習の進め方のヒントなどをマークで示す工夫がされている。また、掲載作品に「作者の言葉」や「アイデアスケッチ」を取り上げるなど、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「学びの地図」や「発見と創造」「探求と継承」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○生活や社会の中で生かす美術の働きを考えることができるように、学んだことを職業に生かしている人物の紹介や「暮らしに生きる美術」を掲載している。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭で〔共通事項〕を意識できるよう説明文を示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫している。 ○「学習のポイント」では、自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、鑑賞の観点や手順を示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、各領域の扉のページで学習を通して学ぶ内容や学習の魅力などを伝える工夫をしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○原寸や作品の細部を拡大した図版を掲載し、学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、赤枠で囲む工夫がされている。 ○各題材にQRコードを掲載し、鑑賞に役立つ資料、用具の使い方、制作手順やポイントを動画で視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名と合わせて「学習の目標」は三つの観点でマークを使い、安全に関する注意や他教科との関連などを11項目のマークで分類している。「学習のポイント」では生徒が主体的に話し合うことや深い学びにつながるよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「映像メディアを活用する」では、ICT機器を活用した作品や表現方法が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 	

美術科調査資料 1 - 2

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">美術</h1>	38 光 村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入に鑑賞を位置付け、鑑賞目標の設定をしている。また、「表現」の説明や作者の言葉などから、造形的な視点を捉えられるよう工夫をしている。 ○各題材中の「表現」の項目で、参考写真と制作の活動が記されている題材や、巻末の「学習を支える資料」につなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想や構想の手立てとして生徒の写真やアイデアスケッチなどを掲載している。また、「みんなの工夫」と題して2名の生徒の制作過程を詳しく紹介し、作家の言葉やアイデアスケッチ、コラムなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「美術って何だろう？」や「うつくしい！」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びを振り返りながら、美術の力や働きを人生や社会で生かすことができるように、「美術の力」を掲載している。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭に〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫がされている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、他者と意見交換をする生徒の写真に、活動内容を文章で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、制作過程を紹介し感じたことや使用する者の気持ちを考えて制作することの大切さを伝える工夫をしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞図版では用紙の素材を変えるなど、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。 ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度動画や音声ガイド、関連する技法の動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名の下に二つの領域別の目標を簡潔に示している。安全に関する注意や資料、他教科とのつながりなどを3項目のマークで分類している。各題材の冒頭に鑑賞作品を掲載し、表現と鑑賞を関連付けて深い学びにつながるよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「写真や映像を撮影する」「映像で広がる世界」では、ICT機器を活用した作品や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 	

美術科調査資料 1 - 3

書名 項目	<h1>美術</h1>	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の解説文において、造形的に捉えられるような文章の工夫がされている。また、作品説明や「造形的な視点」の補足書きからも、捉えられるよう工夫されている。 ○題材で用いた技法を作者の言葉や参考写真で掲載しているものや、巻末の「学びを支える資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」では、図版を指した具体的な問いかけにより全体の印象や気付いて欲しいことを示し、生徒が主体的に考えるように工夫している。掲載作品の作者の言葉や発想や構想のヒントとなるような活動の様子、アイデアスケッチなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「中学校美術の世界へようこそ」や「この教科書で学ぶみなさんへ」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びが生活や社会の場面で生かされることがわかるように、様々な職業の人物の紹介や「社会に生きる美術の力」を掲載している。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」で〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫されている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、生徒が造形活動中に交流する写真を、発想や構想、鑑賞の場面で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、美術を通して自分らしさを見付け、思いを形にする大切さや楽しさを「3年間の成長地図」で紹介する工夫をしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○原寸や部分拡大、見開きの図版を掲載することで学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。 ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度画像や技法の説明動画、作品解説動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名の上に活動や目的を示すサブタイトルを示し、三つの観点別の学びの目標を示している。安全に関する注意などを7項目のマークで分類している。「造形的な視点」で共通事項に気付き、深い学びにつながるよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「写真で表現する」「動画をつくる」では、ICT機器の活用方法や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 	

美術科 調査資料2

○分量について

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	66	80	74
	2・3年上	122	104	64
	2・3年下			60

○題材数等

内容				学年	開隆堂	光村	日文
1	題材数			1年	17	17	19
				2・3年上	39	22	18
				2・3年下			17
2 領域別	A 表現	感じ取ったこと や考えたことを基に、 絵や彫刻などに 表現する活動	描く活動の 題材数	1年	4	4	5
				2・3年上	6	7	4
				2・3年下			5
		つくる活動 の題材数	1年	3	3	3	
			2・3年上	4	6	3	
			2・3年下			3	
	B 鑑賞	伝える、使う などの目的や 機能を考え、 デザインや工 芸などに表現 する活動	描く活動の 題材数	1年	3	3	4
				2・3年上	9	4	3
				2・3年下			3
		つくる活動 の題材数	1年	3	3	3	
			2・3年上	8	4	4	
			2・3年下			4	
美術作品などのよさや美し さを感じ取り味わう活動の 題材数	1年	5	5	5			
	2・3年上	18	6	6			
	2・3年下			5			

○作者等別作品数について

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 生徒の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	64	55	93
	2・3年上	84	61	56
	2・3年下			58
2 日本人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	55	42	41
	2・3年上	132	72	66
	2・3年下			18
3 外国人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	16	19	13
	2・3年上	96	75	44
	2・3年下			39
4 伝統的な表現の数 (文化財、民芸品等)	1年	39	20	16
	2・3年上	121	95	39
	2・3年下			45
5 埼玉県に関連した作品数 (作品等の紹介に「埼玉県」や地名 が表記されている作品等)	1年	1	1	1
	2・3年上	1	2	2
	2・3年下			2

○その他

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 スケッチの数	1年	10	23	10
	2・3年上	2	18	7
	2・3年下			12
2 写真・ビデオ・コンピュータ等の 映像メディアの作品の数 (作者名等の表示があるもの)	1年	3	22	2
	2・3年上	19	11	8
	2・3年下			7
3 日本及び諸外国の独特な表現形式 を扱った題材数	1年	3	2	3
	2・3年上	11	6	7
	2・3年下			4
4 漫画、イラストレーション、図を 扱った題材数	1年	5	7	4
	2・3年上	12	10	3
	2・3年下			3
5 地域の素材を扱った題材数	1年	1	1	1
	2・3年上	4	3	1
	2・3年下			1
6 美術館等を活用した題材数	1年	0	1	1
	2・3年上	2	1	1
	2・3年下			0
7 共働で行う創造活動の作品数	1年	6	0	2
	2・3年上	7	1	0
	2・3年下			8

保健体育科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○健康・安全について科学的に理解するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○体育分野と保健分野の相互の関連が図られるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○運動やスポーツの意義や多様性について理解するために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習内容を理解しやすくするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○生徒が学習しやすいよう、レイアウトや表現等にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○脚注、注釈等には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい保健体育</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き2ページ1単位を学習することを基本とし、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4ステップが学習の流れとして配置され、章末の「学習のまとめ」「確認の問題」では、知識の習得状況を確認できるよう工夫されている。 ○実習のページでは、課題に対応したイラストや資料、デジタルコンテンツが設けられており、写真や動画を活用し、技能が習得できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、それぞれのステップに応じて発問が設定されており、課題の合理的な解決を通して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「活用する」では、習得した知識・技能を活用して、他者に説明したり、話し合ったりする活動を通じて、思考を深める活動ができるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「この教科書の使い方」等が掲載され、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4ステップ構成を理解し、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○各単元の「広げる」や章末の「日常生活に生かそう」には、学習内容を実生活に当てはめて考える活動が設けられ、意欲を喚起するように工夫されている。 <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健分野各単元の「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の活動を通して、身に付いた資質・能力を活用することができるよう工夫されている。 ○インターネットを使った学習のページを用いて、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○様々な形でスポーツに関わる姿が示され、生涯にわたってスポーツに親しむ楽しさや、交流する意義などが考えられるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「章末資料」「確認の問題」「活用の問題」「日常生活に生かそう」が設けられ、学習内容の理解が深められるような工夫が見られる。 ○充実した口絵に加え、「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」が示され、よりよく学習できるような工夫が見られる。 ○「Dマークコンテンツ」を示し、インターネット学習ができるような工夫が見られる。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○8個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という学びの筋道が見える構成になっており、各単元に登場するキャラクターが学習のヒントを提示している。 ○各章末には、発展的な資料があり、知識の習得状況を確認する「章末資料」「確認の問題」「活用の問題」「日常生活に生かそう」が設けられている。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>中学校保健体育</h1>	<p>4</p> <p>大日本</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習の流れを「学習のねらい」「つかもう」「課題を解決しよう」「深めよう」「まとめよう」「活かそう」と構成し、資料を活用しながら学習できるよう工夫されている。 ○資料やイラスト、実技の写真を活用し、デジタルコンテンツも用い技能の習得に役立てるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」では、課題の発見・解決・学習したことを活かすなどのさまざまな活動により、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「学びを活かそう」では、学習したことを理解し、生活に生かすための課題を設定し、対話を通して思考を深める活動を通して、深い学びが実現できるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵では、生徒が学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○「つかもう」では、身近な題材や生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう工夫されている。 <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びを活かそう」では、各章ごとに、自分で考え実践していく内容が設けられており、生涯にわたって実践する資質や能力を養う工夫がされている。 ○他教科等とのつながりを「保健編」「体育編」「他教科」に分けて示し、関連が深められるように工夫されている。 ○運動やスポーツの必要性や楽しさ、様々な関わり方が示されており、運動やスポーツに親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な写真や、現代的なテーマの口絵に加え、「教科書の使い方」や「1時間の学習の主な流れ」のページが示され、見通しをもって学習ができるような工夫が見られる。 ○章末の「学びを活かそう」で記入欄を広く設け、表現力を高められるような工夫が見られる。 ○ウェブサイト内で動画等を使ったインターネット学習ができるよう工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○10個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○本文と資料が明確に分かれた構成となっており、参照性を高める作りとなっている。 ○「学習のまとめ」では豊富な関連資料等を基に幅広い知識を習得し、発展させるような内容が示してある。 	

書名 項目	最新 中学校保健体育	50 大修館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学習項目で見開き1ページを1単位時間とし、学びを3ステップ構成「つかむ（章とびら）」「身につける・考える（学習項目：本文・資料）」「まとめる・振り返る・深める（章のまとめ）」とし、確実に知識を習得できるよう工夫されている。 ○イラストや図表が豊富に掲載され、視覚的にも知識と技能の習得に役立つよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」では、3ステップで構成することで、多様な導入活動を提示し、課題解決的な学習活動を通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「学習のまとめ」では、多様な表現活動を提示し、次の学びにつなげたり、実生活で活用したりすることができるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵に「教科書の使い方」が掲載され、「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」という構成で、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○单元ごとに「きょうの学習」が記載され、この授業で何を学ぶかが明確化されることにより、学習への意欲が高まるよう工夫されている。 <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に関連した情報を提供する「コラム」「事例」や、実生活に生かして考える課題「体育の窓」「保健の窓」を通して、実践力を養う工夫がされている。 ○関連するコラムや資料の近くに各種マークを記載し、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○運動やスポーツには多様な関わり方や楽しみ方が記載され、興味・関心、能力に応じて運動やスポーツが楽しめるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「章のまとめ」を設け、基礎・基本の習得や確認の問題が示されている。「学習の振り返り」を設け、知識・技能の定着度などの評価ができるよう工夫されている。 ○「特集資料」や「クローズアップ」を設け、深く学習できるような工夫が見られる。 ○画像や動画等のオリジナルデジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるような工夫が見られる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○6個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「章のとびら」に小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○学ぶことや学び方の解説を示し、使用文字や色彩、紙面レイアウト、イラストについては、見やすく構成されている。 ○章末「章のまとめ」により、基礎・基本の習得を確認し、定着度が評価できるような構成となっている。 	

書名 項目	<h1>中学保健体育</h1>	224 学 研
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての項目に「目標」「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」で構成され、「キーワード」を掲載し、その時間で習得した知識を活用する学習活動ができるように工夫されている。 ○身に付けるべき技能については「マーク」をし、イラストや写真を掲載し、インターネットやデジタル教材でも学習を深めることができる工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」では、各項目に「見方・考え方」を設け、これらを働かせて思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「まとめる・深める」では、身に付けた知識を基に、自他の課題を見つけ、解決に向けた活動を通じて、実生活に生かせるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を活用する活動を通じて、「今・未来」を考える課題があり、自分の未来やキャリアを考える言葉が示され、実践できるように工夫されている。 ○学習の進め方が掲載され、学習方法についてはイラスト付きの説明があるため、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「保健体育と情報」や「情報サプリー」のコーナーを通して、健康安全について科学的に理解し、健康の保持増進に生かす工夫がされている。 ○「キーワードで見る保健体育の学習内容」では、学習項目をキーワードでまとめ、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○スポーツとの多様な向き合い方が示され、運動の得意不得意に関係なく、生涯にわたってスポーツに親しむための資質や能力を養う工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「章のまとめ」と「学年のまとめ」を設け、自己の評価や振り返りの欄が設けてある。基礎・基本の習得や確認のための問題が示されている。 ○巻頭で「ディスカッション」「ブレインストーミング」「実習・実験」「調査方法」等様々な学習の進め方がイラスト付きで解説されている。 ○デジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるような工夫が見られる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○10個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の始めに、章で学習することの課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学びの系統性が示されている。 ○四つのステップ学習の流れに沿って、学習内容の要素を見やすく構成されている。 ○巻末には、豊富な関連資料等が掲載され、幅広い知識を習得し、発展させられるような内容構成となっている。 	

保健体育科 調査資料 2

○分量について

内容	東書	大日本	大修館	学研
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	206	194	198	206
2 体育理論、保健分野のページ数 (体育理論/保健分野)	37/136	40/122	40/132	38/132
3 絵・巻末の総ページ数	27	27	23	26

○単元別ページ数

東書	<ul style="list-style-type: none"> ○体育編 37 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツの多様性」 11 ページ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 15 ページ 「文化としてのスポーツの意義」 11 ページ ○保健編 136 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「健康な生活と疾病の予防」 56 ページ (① 14 ページ② 20 ページ③ 22 ページ) 「心身の機能の発達と心の健康」 30 ページ 「傷害の防止」 30 ページ 「健康と環境」 20 ページ
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ○体育編 40 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツの多様性」 12 ページ 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 16 ページ 「文化としてのスポーツの意義」 12 ページ ○保健編 122 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「健康な生活と病気の予防」 50 ページ (① 14 ページ② 18 ページ③ 18 ページ) 「心身の発達と心の健康」 25 ページ 「傷害の防止」 29 ページ 「健康と環境」 18 ページ
大修館	<ul style="list-style-type: none"> ○体育編 40 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「運動やスポーツの多様性」 12 ページ 「運動やスポーツの効果・学び方・安全」 16 ページ 「文化としてのスポーツ」 12 ページ ○保健編 132 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「調和のとれた生活」 12 ページ 「生活習慣の健康への影響」 22 ページ 「感染症の予防と健康を守る社会の取り組み」 22 ページ 「心身の発達と心の健康」 30 ページ 「けがの防止と応急手当」 24 ページ 「環境の健康への影響」 22 ページ
学研	<ul style="list-style-type: none"> ○体育編 38 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「スポーツの多様性」 12 ページ 「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 12 ページ 「文化としてのスポーツ」 14 ページ ○保健編 132 ページ <ul style="list-style-type: none"> 「健康な生活と病気の予防」 56 ページ (① 16 ページ② 22 ページ③ 18 ページ) 「心身の発達と心の健康」 28 ページ 「傷害の防止」 28 ページ 「健康と環境」 20 ページ

○領域別教材数等について

内容		東書	大日本	大修館	学研
領域別 教材数	運動やスポーツの多様性	3	3	3	3
	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	3	3	3	3
	文化としてのスポーツの意義	3	3	3	3
	健康な生活と疾病の予防	21	17	20	14
	心身の機能の発達と心の健康	10	9	12	8
	傷害の防止	8	8	8	6
	健康と環境	5	6	8	7

○その他

内容		東書	大日本	大修館	学研
1	体育分野と保健分野の関連をもたせた教材数 ※「欲求やストレスへの対処」と「体ほぐしの運動」等	45	49	47	34
2	主体的・対話的で深い学びを促すための教材数 ※「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等	248	156	117	170
3	発展的内容の教材数	17	15	18	18

技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<p style="text-align: center;">新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology</p>	<p style="text-align: center;">2 東 書</p>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも技術の原理・法則と仕組み、技術による問題解決、社会発展と技術で構成され、導入における「技術の最適化」で技術の見方、考え方に気付けるようにしている。本文の内容を裏づける図などを掲載して科学的な思考に基づく知識と技術が習得できるよう工夫している。全編において、問題の発見と課題の設定を設け、主体的に問題を見だし、柔軟に問題解決に取り組めるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その知識を活用しながら「技術の工夫を読み取ろう」、「問題を発見し、課題を設定しよう」という学習内容で構成されている。また、学習の流れを「問題解決カード」として該当頁の上部に表記している。そして、第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「最適化の窓」「技術の工夫」という欄を設けている。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末には、技術と生活や社会、環境との関わりを資料や図、グラフ等を使用し、持続可能な社会の実現へと結びつけられるよう工夫している。 ○巻末には、技術分野の学習を通して、学んだことを生かし、将来や次代のための技術、地球環境についての未来について取り組めるよう工夫している。 ○Society 5.0を支える技術の紹介やSDGsが目指す持続可能な未来へ向けて技術をどのように活用していくか、考えられるよう工夫している。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考えたり、これからの技術の改良・応用について考えたりできるよう配慮されている。</p>	
資 料	<p>○生徒の発達の段階、学校や地域の実態などによって選択できるように、豊富な問題解決例と資料を取り上げている。</p> <p>○多様なマークを使い、学習のポイントや関連するページやカリキュラムマネジメントが分かるようにし、ページ下には「技術の工夫」として、豆知識を掲載している。</p> <p>○巻末には四つの技術を結びつける総合的な問題解決ページを掲載している。また、コンピュータの基本操作と共に「今すぐできるプログラミング手帳」が別冊で付属している。</p> <p>○QRコードが各内容の最初にあり、ポイントとなる資料や動画などを見ることができる。</p>	
表記・表現	<p>○タイトルや見出しの背景部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。</p>	
総 括	<p>○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。</p> <p>○簡単なプログラミングを体験できるよう「プログラミング手帳」を別冊付録にしている。</p>	

書名 項目	N e w 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」で編集され、3ステップによる学習の流れで構成されている。「みつける」では対話式で興味を引き出すとともに、技術的な見方・考え方を身につけさせ、「学ぶ」で理解し、「振り返る」で考えを深め、次の学習への準備へ接続できるよう工夫している。また別冊が付属し、基礎的な知識や技能をまとめた「技術ハンドブック」を利用することができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、第2章で設計や計画について具体的な製作例（各題材例につき4～6頁）をもとに学習する構成になっている。そして、第1章と第2章の最後に「学んだことをまとめよう」を取り上げ、箇条書きで項目ごとに自分たちの学習過程を振り返らせている。巻末には4内容の設計計画表の例が掲載されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「やってみよう」「まとめ問題」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末では、各内容の技術のプラス面、マイナス面を提示し、持続可能な社会の実現につながるよう、生徒自身の問題として捉えられるよう資料を工夫している。 ○日本の伝統的な技術やコンテストなども取り上げ社会とのつながりを意識づけている。また、身近な取り組み例や生活、社会の問題点について解決できるように工夫している。 ○Society 5.0やSDGsなどを取り上げ、未来の社会を創造するという意識が持てるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考え、まとめでは技術の役割や活用、発展について考えられるよう配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○段階に応じた実習題材を配し、基礎内容をまとめた別冊ハンドブックや計画表を利用することで実践に役立つ知識や技能の習得ができるようにしている。 </p> <p> ○目立つロゴやマークを配置し、学習のポイントを分かりやすく示している。また、各内容それぞれにおいて、設計・計画できるワークシートが付属している。 </p> <p> ○各内容で学んだ技術を組み合わせて問題解決に取り組める「夢をかなえる技術」編を提示し、身近な問題点を考え、改善のきっかけとなる資料を特集している。 </p> <p> ○QRコードが各ポイントにあり、関連した資料やプログラムなどを見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○重要語句は色を変えて強調し、資料との関連はすべて本文の説明と関連付けて示している。また、他教科との関連は各章の最初に示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」のまとまりで構成されている。 </p> <p> ○基礎技能を、実習時に手軽に持ち運べるよう別冊「技術ハンドブック」にまとめている。 </p>	

書名 項目	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも見方・考え方に「気づく」、見方・考え方を「はたらかせる」、振り返り「定着させる」で構成されている。導入部分で具体的な製品を示し、技術の見方・考え方を解説して、課題を提示している。科学的な原理や仕組みをおさえた解説や深めた実験を配置して理解が深まるよう工夫している。各内容の出口にはこれからの技術や学習のまとめがあり、技術への関心や課題意識をもてるよう工夫している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順(内容A)」、「技術による問題解決(内容BCD)」について学習する構成になっている。また、どの内容も学習の流れを「問題解決の流れ」として見開きで表記している。そして、第3章のはじめに「学習を振り返ろう」を取り上げ、技術と生活や社会、環境との関わりと関連させながら学習する構成になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「私たちの未来」「学習をふり返ろう」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容ともに各界で活躍する人や企業を取り上げたり特色ある活動の地域を紹介したりし、身近な技術について興味を持てるよう工夫している。 ○社会で行われている企業のものづくりの順序と学習の順序とを関連づけ、PDCAサイクルとともに示し、まとめでは、キーワードで振り返られるよう工夫している。 ○実習例においてもPDCAサイクルを意識した実習の構成になっていて、学習した内容が社会へと繋がるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、これまでの学習をふり返り、技術の見方・考え方について考えたり、技術の役割やこれからについて考えたりできるように配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○地域や学校事情等に適合するよう、各内容で複数の実習例を提示し、トレードオフと最適化に気付かせるようにしている。 </p> <p> ○学習のポイントや関連するページ、カリキュラムマネジメントが一目で分かるマーク類を多数用いている。また、ページ上下には豆知識や関連工具などの写真を掲載している。 </p> <p> ○各内容の始めには技術の歴史のページがあり、巻末資料には技術分野の学習を振り返る特集やコンピュータの基本操作が掲載されている。 </p> <p> ○QRコードが各ポイントにあり、関連した動画やコンテンツを見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○タイトルの背景部分や見出し部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「技術・技能の基礎・基本」、「問題発見、計画立案、活動の評価・改善」、「技術の評価・活用」のまとまりで構成される。 </p> <p> ○言葉の判別がしやすくなるよう改行のしかたを工夫している箇所がある。 </p>	

技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302

○項目別ページ数について

< A 材料と加工の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術	18	24	22
(2) 材料と加工の技術による問題の解決	40	48	44
(3) 社会の発展と材料と加工の技術	8	4	4

< B 生物育成の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える生物育成の技術	12	12	18
(2) 生物育成の技術による問題の解決	28	32	20
(3) 社会の発展と生物育成の技術	6	4	4

< C エネルギー変換の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	30	32	36
(2) エネルギー変換の技術による問題の解決	20	30	10
(3) 社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

< D 情報の技術 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える情報の技術	20	32	42
(2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	16	36	10
(3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決	16	20	12
(4) 社会の発展と情報の技術	6	4	4

○キャリア教育との関連にかかわる箇所

東書	20	建築家 養殖業 ネジ製造業 人工知能研究 学んだことを社会に生かす
教図	14	寄木細工職人 農業・野菜ソムリエ 航空機整備サポート ソフトエンジニア 先輩からのメッセージ
開隆堂	11	椅子製作 6次産業化 アシストギヤ開発 ゲームアプリ開発 私たちの未来へつなげよう

○企業などとの連携にかかわる箇所

東書	24	強化プラスチック(CFRP) 新幹線 自動車 飼育方法 自動運転
教図	17	自動車 養殖技術 資源 生体認証
開隆堂	21	規格材 金属精錬技術 品種改良 自動車

○安全指導にかかわる箇所

東書	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	40	実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 パスワード

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	15	16	15
(2) 製作品の例示数	41	32	29
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	70	73	99
(4) 技術にかかわる倫理観について取り上げている箇所数	34	25	31

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするため、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことができるようにするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等、資料と本文の関係及び資料のレイアウトには、どのような工夫が見られるか。	
表記・表現	○家庭分野における学習方法の特質である衣食住などに関する実践的・体験的な活動を安全かつ効果的に進めるために、どのような工夫が見られるか。 ○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。 ○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<p>新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○身に付けさせたい技能を「いつも確かめよう」にまとめて掲載したり、各節の最後に「まとめの活動」を設けたりする等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。 ○編ごとに「学習のまとめ」「大切な用語（重要語句の一覧）」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○ガイダンスでは問題解決的な流れを具体例とともに示したり、各編の導入では、身方・考え方の例を示したりして問題解決に生かす工夫がされている。 ○実習例では、「私のオリジナル」として工夫例を取り上げ、生徒の創造性を引き出すことができるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習を深めるために「活動」として調査活動や比較実験等の課題を設け、家庭生活を見つめ、よりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。 ○学習に関わりにある人からのメッセージを紹介する等つながりを感じられる工夫がされている。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○学校の実態や個に応じて、選択できる実習例が掲載されている。 ○実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」等で、技術の定着を図る手助けとなるような付録や写真・イラスト等の工夫がある。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○本文と資料は「資料マーク」で区分され、ページ下には学習内容の関連コラムを「せいかつメモ」として掲載し、資料のレイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・高齢者介助方法等）、付録の充実（防災手帳・幼児の視界体験眼鏡）と学習効果を高める資料の工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○実習例が大きく見開きで掲載され、安全・衛生の注意事項にマークを表記している。 ○紙面右端に「各編・各章」「実習例」「いつも確かめよう」の爪となる色帯表記、巻末に「言葉のページ（用語の解説）」と検索性を高める工夫がされている。 ○学習内容を関連付ける他教科・小学校マーク等、各種表記の工夫がされている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○別支援教育の観点から、学習しやすいよう内容及びデザインについて文字の書体、図版やイラストのレイアウト等に配慮がされている。 ○ガイダンスの後、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、A（家族・家庭生活）の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する</p>	<p style="text-align: center;">6 教 図</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見方・考え方を養うことができる「やってみよう」のページは、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の3ステップで構成され、問題解決的に知識・技能を習得させる工夫がされている。 ○学習のまとめりごとに「章末のまとめ」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決的な学習を手順に沿って繰り返し取り上げ、見方・考え方の視点を意識し、生活を工夫し創造する力を身に付けながら、課題を解決できるよう工夫されている。 ○実習題材は、基本の作り方や「私のアレンジ」をもとに、生徒一人一人が自らの問題に合わせて工夫し、創造することができるように配慮されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○問題解決的な学習の進め方を具体的に見開きで紹介し、「やってみよう」で得た学びを活かして主体的に学習に取り組めるよう工夫がされている。 ○学習に関わりのある人からのメッセージを紹介し、社会とのつながりを感じられるような工夫がされている。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○実習題材は、実習の流れが分かりやすく進めやすいような手順の工夫があり、実践的・体験的な活動を通して、知識・技能が身に付けられるように配慮されている。 ○ロールプレイング等の活動例が掲載されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○本文と資料はマークで区分され、「資料マーク」と「参考マーク」を示して資料に選択性をもたせ、また、視覚的な資料を掲載し、レイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・幼児の様子等）、献立作成の学習で使用できる食品シールの付録等、学習効果を高める資料の工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○実習例の注意事項に安全・衛生マークを付し、アレルギー物質を含む食材の代替え食品例を示している。また、実習の工夫例や失敗例も併せて掲載している。 ○紙面左上に「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」の爪表記がある。 ○学習内容を関連付けるリンク・共生マーク等、各種表記の工夫がされている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○特別支援教育の観点から、色遣いやフォント、余白のバランス、図の見易さ等、生徒の発達特性について工夫され、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生</p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「調理方法Q&A」や「製作の基礎・基本」を掲載する等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がある。 ○学習のまとめりごとに「ふり返り」「生活にいかそう」の欄があり、学習の自己評価ができるとともに、身に付いた知識・技能を生活に生かすことができるよう構成が工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○教科書全体を通して、学習過程が統一されており、学び方や進め方が分かりやすく、問題解決に向けて取り組みやすくなる工夫がされている。 ○様々な対話や意見交換ができる学習活動が取り入れられており、会話を通して考えを明確にするなど、生徒自らの考えを広げて深められるような工夫がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習のまとめりごとに見通しをもち、生活の中から課題を見つけられるような本文の記述や課題が配置され、主体的に課題に取り組める工夫がされている。 ○学習に関わりのある人のメッセージやインタビューを取り上げ、社会とのつながりを感じられるような工夫がされている。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫> ○家庭でも取り組みたくなる調理実習例や、普段から使いたくなる製作実習例等、主体的に取り組める工夫がされている。 ○「グループワークの様子」等の活動例が掲載されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○本文と資料は「参考マーク」で区分され、奇数ページ右上に学習内容の関連写真や名称、各ページ下には豆知識を掲載し、資料のレイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・幼児の様子等）が参照でき、基礎縫い動画は左利き生徒にも対応し、学習効果を高める資料の工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○実習例は手順を大きく横流れに統一し、安全・衛生の注意事項はマークを付し、アレルギー物質を含む食材にも黄色を付して注意を促す表記をしている。 ○一つの見開きの中に本時の目標から学習活動、終末が見通せるようになっている。 ○学習内容を関連付ける他教科・実験マーク等、各種表記の工夫がされている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○特別支援教育の視点を取り入れ、読みやすい文章、カラーバリアフリー等、ユニバーサルデザインに基づいた設計で、使いやすくなるように配慮がされている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順の内容の配列になっていて、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。</p>	

技術・家庭科（家庭分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	304	306	302

○項目別ページ数について

< A 家族・家庭生活 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 自分の成長と家族・家庭生活	6	12	12
(2) 幼児の生活と家族	36	34	30
(3) 家族・家庭や地域との関わり	11	10	12
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	2	2	2

< B 衣食住の生活 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	8	12	8
(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	18	20	26
(3) 日常食の調理と地域の食文化	58	58	52
(4) 衣服の選択と手入れ	24	26	24
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	26	22	20
(6) 住居の機能と安全な住まい方	22	22	18
(7) 衣食住の生活についての課題と実践	3	6	4

< C 消費生活・環境 >

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 金銭の管理と購入	14	24	14
(2) 消費者の権利と責任	10	18	20
(3) 消費生活・環境についての課題と実践	1	2	2

○学習指導要領との関連について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) ガイダンスに関する内容のページ数	14	16	12
(2) 日本の生活文化に関する内容の掲載箇所	29	25	21
(3) 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の掲載箇所	46	54	59
(4) 問題解決的な過程を重視した学習の充実を図る内容の掲載箇所	62	75	56
(5) 言語活動の充実を図る内容の掲載箇所	12	31	29

○配慮事項について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) キャリア教育についての配慮がされている箇所	17	18	19
(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用を図った箇所	44	54	62
(3) 防犯意識を高める工夫がされている箇所	8	12	12
(4) 特別支援の観点への配慮がされている箇所	教科書全体	教科書全体	教科書全体

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	19	12	12
(2) 製作品・調理実習の例示数	24・52	7・55	10・44
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	77	87	92
(4) 安全・衛生に配慮する項目を取り上げている箇所数	46	58	55

外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができるように、どのような工夫がされているか。 ○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、どのような工夫をしているか。 ○文、文構造及び文法事項について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。 ○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。 ○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。 </p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW HORIZON English Course</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元で「Preview」の後の「Story」で本文を扱い、その概要や新出表現を理解させるようになっている。登場人物や話題が本文と関連した「Practice」にて代入練習を行い、新出表現を定着させるように工夫されている。 ○「Story」の「Practice」の下に、話す・書く活動が設けられている。「Mini Activity」にて、聞く・話す・書く技能を身に付けさせるようになっている。「Let's」シリーズでは、目的・場面・状況を明確にして各領域に特化した活動を扱っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Preview」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Talk」では3段読みで概要・詳細を理解・整理し、表現につなげている。また、「Stage Activity」では、「Unit Activity」で高めた表現力を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Mini Activity」、「Unit Activity」、「Stage Activity」という順で、知識や技能を総合的に扱い、相手に配慮したコミュニケーションに結び付ける活動を取り入れている。SDGsに関連した今日的課題や世界に目を向けさせる話題など題材に工夫がある。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページには活動の目標が示され、単元末の「Unit Activity」の「CHECK」で振り返る形となっている。巻末の「CAN-DO リスト」には領域別の目標が示され、単元との関連が分かるように工夫されている。 ○各単元に「Key Sentence」と「Practice」を設け、目的や場面に合う文法が使えるようにしている。単元末に「Grammar for Communication」を設け、新出文法と言語活動の関連が取り上げられている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」「Stage Activity」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」で発信語彙を太字で表記している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、「目的や場面、状況に合わせてコミュニケーションをしよう」や「学習の見通しを立てよう」があり、何を学習するのか見通しが立てられるように工夫がされている。巻末の「Word Room」では、ジャンル別の補充単語・表現が掲載されている。 ○各単元内のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字とその音声、スライドアニメをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生全編で独自の手書き文字に近い書体を使用し、2、3年生は手書き文字に近い書体と活字体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が水色で併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Preview」で単元の場面などを想起し、単元後に配されている「Stage Activity」に向けて「Mini Activity」「Unit Activity」で学習を積み上げていく構成になっている。1年生の早期に「話す」「聞く」活動を通して小学校で扱った表現を取り上げている。また、高校以降の学習に備え段階的に読む語数を増やす構成としている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">SUNSHINE ENGLISH COURSE</p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元では、「Scenes」のマンガを見ながら新出表現を視覚的に理解できるように工夫がされている。また、「Scene」の1～3までのストーリーはつながっており、単元で学ぶ新出表現をまとめて導入することもできるようになっている。 ○各単元の「Scenes」で理解した表現を「Listen」、「Speak」、「Write」の3段階の活動を通して使い方に慣れ、各技能を伸ばすことができるようになっている。「Steps」では発信の技能を身に付け、「Our Project」につながる仕組みになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Think」で内容を整理し、「Retell」で発表し、「Interact」で必然性のある場面設定でのやり取り、「Reading」の終わりに自己表現活動がある。また、「Our Project」では、「Program」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Interact」や「Our Project」では自分の考えをもたせた上で、目的や相手を意識したコミュニケーション活動を通して、相手にわかりやすく伝える力をつける工夫がされている。日本の伝統文化、国際理解を深める題材やSDGsに関連した題材等、多面的かつ世界的な視野で取り上げられている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元最初のページの「Goal」で単元の目標が記され、各目標が単元内のどの活動と関連しているかマークで示されている。巻末には「英語で『できるようになったこと』リスト」として領域ごとの3年間の目標が設定されている。 ○各単元に「Scenes」を設け、新出文法がどのような目的や場面で使われるのか視覚的に示している。「Interact」では、当該単元で学んだ表現を使って言語活動を行う構成になっており、新出文法と関連付けられている。 ○言語活動に必要な語彙が「Word Box」「Steps」等に取り上げられている。「New Words」の発信語彙は太字、受容語彙は一般語彙と感嘆語、短縮形等に分けて表示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には各単元の構成が示されており、学習の見通しが持てるように工夫されている。各単元の「Scenes」では、イラストとともに学習する言語材料が掲載されている。巻末の「アクションカード」には表現活動に活用する語彙や表現が掲載されている。 ○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、本文の音声とスライドをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生前半は独自の手書き文字に近い書体、後半は活字体に近い書体を使用し、2、3年生は、活字体とブロック体を併用している。各学年共通でアクセントは各単語に水色で付記し、発音記号は巻末資料に掲載してある。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元は、基礎・基本を習得し、題材について考え、自分の言葉で本文を語り、自己表現する力を身に付けるという流れで学習し、「Our Project」で5領域の統合的な活動につなげる構成となっている。また、小学校英語で学んだ表現を帯活動等で繰り返し使う機会を設けている。3年生では、論理的な説明文や1000語超の物語文を読む機会を設けている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW CROWN English Series</p>	<p>15 三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元の「GET」における「POINT」では、その解説文とともに文法事項や文構造を整理・理解させるようになっている。「Drill」において、「POINT」の文の語句を入れ替えながら繰り返し練習し、基礎的な力を身に付けさせる仕組みとなっている。 ○「GET」で学んだ知識を用いて、「Listen」で聞く力を、「Speak」「Talk」「Write」で新出文法を含む英文を使って発信する力を身に付けさせるようになっている。「Get Plus」では、実際のコミュニケーションで活用する力を養うようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Use」では、意見・説明・物語文で構成された「Read」で情報を整理し、「Speak」と「Write」で目的や場面、状況に応じた自己表現活動がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「USE Speak」や「USE Write」、「Project」において目的や場面・状況に応じて相手意識をもたせ、互いを認め合いながら表現できるようになっている。「ことばを使う」、「かかわる」、「考える」、「学ぶ」を軸に選ばれた異文化理解や伝統文化等の題材を通して、SDGs等の現実の様々な課題に対応できるように工夫されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○裏表紙には領域ごとに育成したい目標が「What Can I Do?」で示されている。各単元の最初のページには活動内容や活動目標が示されており、学習の見通しを立てることができるよう工夫されている。 ○各単元の「GET」の中に「Talk」や「Speak」の活動を入れ、新出文法を用いた言語活動を行うようになっている。「GET Plus」における場面設定を明確にした言語活動と、次ページの「文法のまとめ」における新出文法との関連付けがされている。 ○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Idea Box」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」において、発信語彙を太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には「この教科書のしくみ」とともに学びのサイクルや身に付けたい力を視覚的に意識できるようになっている。巻末には「会話を進める表現」「ロールプレイシート」を掲載し、発信力を高めるように工夫されている。 ○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声や実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生から独自の書体、UDフォント、ブロック体、活字体を段階的に使用し、2、3年生は併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元は、基礎の習得から各領域の活動を通して活用する力を身に付ける構成になっている。1年生の「Lesson」の導入は、小学校で体験した場面での対話や発表を聞いて学びを振り返る設定になっており、小学校との接続を意識した内容となっている。また、3年生の最長の読み物教材は高校で扱われる英文を意識した語彙数となっている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">ONE WORLD English Course</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の「Key Sentence」では、新出文法を扱った例文が示され、その右側の「Notes」では意味・形・用法が説明されている。また、「Tool Kit」では、例文で使用されている語句を入れ替えながら練習し、新出文法の定着が図れるようになっている。 ○各単元の「Think & Try!」では、当該単元で学習した本文の一部を活用し、話したり書いたりする表現活動が設定されている。「Tips」のコーナーでは、5領域それぞれの技能を高めるためのコツが紹介されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深め、情報整理の「Review」、発表の「Task」、自己表現の「Think & Try!」がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Project」では、既習の知識・技能を総合的に活用し、グループなどで他者と協働を通して課題を達成していく活動ができるようになっている。SDGsとの関連も含めて世界の多様なあり方と課題について自分のこととして向き合う題材が取り上げられている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末には「CAN-DO 自己チェックリスト」があり、各領域の目標ごとに関連単元等が示されている。単元末に単元目標の達成状況を振り返ることができるように工夫されている。 ○単元末の「Think&Try!」では新出文法を用いた言語活動を行えるようになっている。また、「Task」では、学んだ言語材料を用いて5領域の統合的な活動を行うことで、新出文法と関連付けられるような構成となっている。 ○言語活動に必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words&Phrases」で発信語彙の中から「特に覚えない語」を太字で示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には学びの流れが示され、学習の見通しが立てられるような工夫がされている。巻末の「Activities Plus」では、マスキングシートを活用して、重要な語句や文、表現を学習できるように工夫されている。 ○各単元の最初のページにQRコードが掲載され、本文の音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生初期からUDフォント、ブロック体、ローマン体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元において三つの「Part」を通して学んだことを巻末の「Activities Plus」を活用して確認、定着をさせ、「Project」において5領域の統合的な活動を通して自己表現をするという構成となっている。1年生では小学校で学んだ表現をゲーム等の活動で復習する「Springboard」があり、小学校との接続が意識されている。 	

書名 項目	Here We Go! ENGLISH COURSE	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元は「Part」ごとに分かれ、「Listen」、「Speak」、「Write」コーナーの各活動を行なった後、「基本文」を扱うことで使いながら学んできた新出文法を確かめたり整理したりすることができる構成になっている。 ○各「Part」の本文、「Listen」、「Speak」、「Write」の言語活動は各単元の一貫したCAN-DO形式の目標が設定されている。巻末の「Let's Talk」は、継続的に扱うことで、やり取りや発表の際に用いる表現の練習ができる教材となっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」、自己表現の「About You」がある。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末の「Goal」と「You Can Do It!」では学んできた知識・技能を使い、複数の領域を横断した活動に取り組み、グループで協働学習できるようになっている。多様な考え方の理解、文化、人権などSDGsとの関連も含めて様々な題材で構成されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の最初のページに領域の単元目標が提示されており、単元末の「Goal」の言語活動を通して目標達成について振り返る構成となっている。巻末の「CAN-DO List」には、領域ごとの目標とそれに関連する単元が示されている。 ○各「Part」に「Speak」を設け、学んだ表現を活用する目的や場面が分かるよう工夫されている。単元末の「Active Grammar」では、当該単元で学んだ表現を活用する具体的な状況を設定し、文型・文法と実際の使用場面との関連が取り上げられている。 ○言語活動に必要な語彙が「Word Board」「Goal+」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「New Words」において、発信語彙を太字で示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には教科書の構成とともに3年間を通しての到達目標が示されており、学習の見通しが立てやすくなっている。巻末には「Let's Talk!」が付属しており、場面に応じて会話をする力が付けられるようになっている。 ○各単元の「part」ごとにQRコードが掲載され、本文の音声やスライドアニメ、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生初期は独自の手書き体を使用し、その後、ブロック体、セリフ体を併用している。1年生においては、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が青色で併記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容は3年間ひと続きのストーリーから成っており、登場人物の成長を通して、本文の内容に生徒が共感しやすい内容となっている。小学校との接続を意識して、1年生巻頭では、全て小学校で学んだ語句と表現で構成されている。3年生では高校の学習への目標をもてるよう「英語のトレーニングを続けていこう」のページがある。 	

<p>書名 項目</p>	<p>BLUE SKY English Course</p>	<p>6 1 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元の「Target」では新出文法を含んだ例文が解説とともに示されている。「Practice」や「Use」では、「Tool Box」の表現とともに新出文法の形に慣れるための発話練習を行う仕組みになっている。 ○各「Part」において、学習の流れが統一されており、一貫した形で新出事項を理解させるようになっている。「Let's」シリーズでは、「話す」「聞く」「読む」の各技能を、身近な場面や状況に設定して学習できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の各「Part」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Think」で整理した情報をもとに自分の意見や考えを持ち、「Express Yourself」で自己表現する機会がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Use」、「Express Yourself」、「Project」では、自分の意見や考えについて他者を意識しながら伝え合う学習ができる構成になっている。各学年人権、福祉、自然など外国の話題について取り上げ、SDGsとの関連も含めて自国との相違点に気付かせるなど国際理解や異文化理解を深められるようになっている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の扉には各「Part」の目標が示されている。巻末には領域ごとの「Can-Do リスト」に3年生までの達成目標が示されており、学習の見通しがもてるよう工夫されている。 ○各「Part」に「Practice」「Use」を設け、新出文法を使った言語活動に取り組めるようになっている。「Target のまとめ」の「Let's Try」では、テーマについて学んだ表現を用いての言語活動が設定されており、新出文法との関連付けがされている。 ○言語活動に必要な語彙が「Tool Box」「Notes」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」で、特に身に付けたい語彙を「必修重要語」として太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には教科書の使い方が示されており、学習の進め方が視覚的に分かるようになっている。巻末には「Word Box」が掲載されており、場面に応じた表現力が高められるようになっている。 ○各単元の「Party」ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字と音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生はUDフォント、2年生はブロック体と活字体を併用、3年生は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元で新出表現を含んだ本文を読んで理解を深め、自己表現をする活動を行った後、「Project」において5領域を統合的に活用する活動へつなげる構成となっている。1年生の巻頭では小学校で学んだ語彙・表現を用いて学習を行い、定着を図る構成になっている。3年生にはディスカッションや長文作文の活動があり、高校への接続が意識されている。</p>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	174	172	186	176	190	158
	2年	166	172	178	178	190	166
	3年	162	164	186	178	190	150
2 新出総単語数	1年	1004	1005	1131	1109	960	867
	2年	714	563	890	575	605	659
	3年	649	538	540	483	623	439
	合計	2367	2106	2561	2167	2188	1965

○領域別教材数等（言語活動）について

※ 2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit 等)	1年	11	10	8	9	8	10	
	2年	7	8	7	9	8	8	
	3年	6	7	7	7	8	6	
2 総教材数	1年	215	193	153	140	165	199	
	2年	208	183	144	145	186	190	
	3年	175	159	127	116	157	147	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	1年	55	53	32	53	66	41
		2年	15	46	26	49	71	37
		3年	17	40	23	29	60	27
	② 主に読むこと	1年	38	21	29	43	32	35
		2年	53	17	35	55	43	33
		3年	37	15	34	58	30	28
	③ 主に話すこと【やり取り】	1年	45	58	43	19	32	60
		2年	37	53	36	12	33	39
		3年	29	48	27	6	32	30
	④ 主に話すこと【発表】	1年	26	12	12	14	6	26
		2年	37	16	15	15	8	46
		3年	38	11	18	12	9	33
	⑤ 主に書くこと	1年	51	49	37	11	29	37
		2年	66	51	32	14	31	35
		3年	54	45	25	11	26	29

○文種別教材数（本文）について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 物語・詩	1年	1	1	1	4	1	2
	2年	2	1	2	2	1	1
	3年	2	1	2	1	1	1
2 説明文・意見文・感想文	1年	9	0	14	7	4	6
	2年	22	10	14	13	11	16
	3年	20	14	15	16	21	14
3 対話文・スキット	1年	34	33	11	20	24	34
	2年	12	25	15	20	23	23
	3年	9	17	15	12	13	18
4 その他 (伝言・手紙・メール文を含む)	1年	5	1	11	2	5	0
	2年	7	1	5	3	6	1
	3年	5	2	5	4	3	2

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材	①クリケット、朝食、サッカー、ニュージーランドの生活、日本の夏祭り、シドニーフェスティバル、フィリピン、世界的な課題、ロンドンの年越し、日本の正月 ②福井、シンガポールの生活、海外旅行のおみやげ、日本と外国の食文化、AI アメリカの生活、日本の習慣やマナー、ユニバーサルデザイン、映画 ③世界の言語、パラリンピック、防災、投票、日本の文化、国際協力、食品の選択	①ジュニア・セーフティ・パトロール、世界の果ての通学路、フィンランド、正月 ②屋台、ごんぎつね、日本のポップカルチャー ③日本の弁当文化、睡眠、手話、AI、イグノーベル賞	①インドの文化、ロンドンの文化、アメリカの学校生活、車いすバスケット、マニフェスト、アリス、すし ②ピーターラビット、日本の文化、星の王子さま、世界の暮らし ③音楽、まんが、インドの生活、英語の名言	①オーストラリアの学校生活、北海道の自然、ビクトグラム ②しまなみ海道、松山市、ジェスチャー、サンタラ ③赤毛のアン、オリンピック、アメリカのニュース報道	①世界の中学生 ②ニューヨークへの旅行、地震への備え、富士五湖、日本の絵文字文化 ③世界中の学校生活、AI テクノロジーと言語	①金沢市、アメリカの学校生活、アメリカの食事 ②シンガポールのマナー、ニュージーランドで人気のスポーツ、日本の町おこし ③世界の食文化、オリンピック

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
2 世界や日本の伝統文化に関する題材	①日本の伝統文化に取り組む外国人、落語 ②ブロードウェイミュージカル ③俳句	①書道・かるた	①神社、落語、風呂敷・花火・うどん ②中国茶、落語	①日本の中にある海外文化マング文化 ②日本の建築物、鎌倉の大仏、ハロウィーンとお盆 ③異文化交流、日本料理	①お正月 ②日本の伝統文化紹介、アボリジニー ③韓国の文化、世界の中学生の環境を守る取り組み	①マンガ文化 ②ニュージーランドのマオリ族、秋田県の竿燈祭、新潟県の長岡祭り、スペインのトマト祭り、タイの水かけ祭り ③日本の伝統文化紹介
3 世界の地理や歴史に関する題材 (平和に関する学習を含む)	①ロンドンの名所、富士山 ②時計の歴史、世界遺産、原爆、ガンディー、八田與一	①オーストラリア ②人種差別、日本とトルコの友好、原爆、佐々木禎子、杉原千畝 ③バスケットボール、忠実な象、チョコレート の歴史、マララ・ユスフザイ	①オーストラリア、ニュージーランド ③佐々木禎子、人種差別、A Moment of Peace	①アメリカの自然 ②グランドキャニオン ③カナダ、第二次世界大戦、国際支援、広島平和記念公園	②オーストラリアの面積と人口、ウルル、グレートバリアリーフ、アボリジニアート、世界遺産巡り ③広島平和記念公園	①ニューヨーク ②国の面積・平均寿命ランキング ③ライト兄弟、月面着陸、広島平和記念公園
4 自然科学に関する題材	①世界の水問題 ②アラスカの環境問題 ③食物連鎖、レッドリスト、エネルギー	②パンフ国立公園、生物をヒントにした技術 ③海のゴミ問題	①グリーンフェスティバル、富士山 ②フルカ・ウォーター・プロジェクト ③自然から学ぶ	①環境問題(ゴミ処理、温暖化) ②動物の生態、再生可能エネルギー ③環境問題(野生生物)	③絶滅危惧種、環境問題(プラスチックゴミ)	②動物の生態 ③野生動物の保護
5 最長読み物教材 総単語数()は 付録読み物	①230(260) ②397(323) ③509(589)	①243 ②294 ③346(1006)	①198(132) ②355(223) ③473(410)	①231(343) ②340(539) ③615(602)	①112(155) ②396(214) ③517(465)	①127 ②463 ③440
6 スピーチの取扱い	①6 ②9 ③14	①6 ②11 ③11	①9 ②8 ③8	①12 ②8 ③6	①6 ②8 ③10	①3 ②8 ③10
7 文法事項の説明 に関するページ数	①10 ②6 ③6	①10 ②8 ③7	①9 ②7 ③7	①12 ②9 ③6	①6 ②9 ③2	①10 ②6 ③5

※①は1年生、②は2年生、③は3年生を表している。

道徳科調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるか。 ○自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）を育成するために、どのような工夫が見られるか。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題についてどのように取り上げ、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするために、どのような工夫が見られるか。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階に即し、ねらいを達成する上で、どのような工夫が見られるか。 ○深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるために、どのような工夫が見られるか。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実するために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習に関して、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を喚起するために、読み物教材にはどのような工夫が見られるか。 ○効果的に活用するために、挿絵や写真、図などにはどのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容を把握しやすくさせるために、仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるか。 ○主な記述（読み物教材など）と道徳科の内容項目との関係の示し方にはどのような工夫が見られるか。 	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新訂 新しい道徳</h1>	2 東 書
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の見出しでは、内容項目に関連したテーマを設定することにより、授業を通してねらいからぶれないようにするとともに、導入で問題を提起してから教材に入るといった問題解決的な学習の流れにより、価値理解を深めるよう工夫されている。 ○自己を見つめるため、巻末に自己評価用紙が設けられている。多面的・多角的に考える力を育むため、一つの事象について教材を読んだりグループで話し合いをしたりする中で、道徳的価値を理解しながら問題解決を図る教材が配置されている。 ○教材末尾に「考えよう」や「自分を見つめよう」の問いを設け、授業で学んだ道徳的諸価値を道徳性の育成につなげる工夫がされている。また、「心情円」を活用することで、考えや思ったことを可視化できるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」と「生命尊重」について問題対応ユニットを配置し、複数教材を通していろいろな角度からそれぞれの問題の考えを深めるよう工夫されている。 ○各学年に「情報モラル」に関する教材を配置し、SNSでのいじめなど新しい問題を掲載している。また、スマートフォンの画面を配置するなど工夫されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生は郷土の学習、2年生は国の学習、3年生は国際理解の学習を重点項目に設定し、考える範囲が段階的に広がっていくよう配慮されている。 ○小中の関連を図った教材を用意したり、3学年の発達の段階を考慮して教材を配置したりするなど、系統的に学習できるよう工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話し合いの手引き」では、話し合いの手順やルールを具体的にし、学習の際にも折り込みページを同時に活用できるよう工夫されている。 ○全学年に役割演技などの手立てを示す「ACTION」を掲載し、話し合いや体験的な学習を通して考えが深まるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材によっては、あらすじや登場人物の説明が記されており、教材の内容を理解する手助けになっている。教材の文章は短時間で読めるものが用意されている。 ○導入で活用する漫画や挿絵（イラスト）を見ながら考える教材が掲載されている。 ○Dマークを付した題材では、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○心情円やホワイトボード用紙の収納、UDへの配慮がされている。 ○漢字は、小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞には振り仮名が付されている。難解な表現は避けるように配慮されており、難解な言葉や必要な情報は脚注で必要に応じてイラストや写真を交え、解説されている。 ○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、ねらいとなるテーマが示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に設けられている自己評価用紙と心情円で、自己を見つめたり考えを可視化したりできるよう工夫されている。 ○3学年の発達の段階に合わせて、系統的な学習ができるよう教材が配置されている。 	

書名 項目	<h1>中学道徳 とびだそう未来へ</h1>	17 教 出
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを分かりやすく提示し、各教材に設定された「導入」で学習の目的をつかみ、「学びの道しるべ」では三つの問いを連携させて自分との関わりで考えを深めることにより、道徳的諸価値の意義や意味について理解を深めるよう工夫されている。 ○教材冒頭の導入で生徒の経験や考えを想起させたり、教材末尾の「学びの道しるべ」で自分に引き付けて考えたりできるよう工夫されている。巻頭のページに、多様な考えを深める学習場面が例示され、話合いのイメージがつかめるよう工夫されている。 ○教材末尾の「学びの道しるべ」の問いを通して、道徳的諸価値の理解を深め、道徳性の育成が図れるよう工夫されている。また、巻末に「道徳の学びを振り返ろう」を設け、自分の成長を実感し、課題や目標を見つけることができるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」、「差別問題」、「生命の尊さ」について深く考える教材を複数組み合わせたユニットを設け、重層的に考え、深めていくことができるよう工夫されている。 ○発達の段階に合った生活場面から「情報モラル」について考える教材が掲載され情報機器を通したよりよい人間関係について主体的に話し合えるよう工夫されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年を通して取り組みやすさが重視されており、生徒が無理なく学習できるよう、短い教材や見て分かる教材が掲載されている。 ○各学年の教材は、発達の段階に即して各視点の取り扱う教材の比重を変えており、内容が分かりやすく、考え、議論する時間が取れるよう配慮されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭オリエンテーションでは、「道徳科の学びを深めるために」と題し、問題解決的な学習への取組方法を示すことで学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○体験的な学習を伴う「やってみよう」の活動は、全てその直前の教材に関連しており、授業とリンクするよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○読み継がれてきた教材や理解しやすい短めの教材、見てわかる教材が掲載されている。歴史や文化、スポーツなど、様々な分野で活躍した人物を取り上げている。 ○挿絵や漫画、大きな写真などを使うことで、興味・関心を引き出している。 ○「まなびリンク」マークがある題材は、教材内容を補足する専用のウェブサイトが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○取り組みやすさが重視され、教材の工夫やUDへの配慮がされている。 ○漢字は、小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞には振り仮名が付されており、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や読み取りのために必要な情報は脚注で必要に応じて写真を交え、解説されている。 ○目次と教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、テーマごとに関連した教材が示されている。巻末に、四つの視点と内容項目一覧が示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の導入と教材末尾の「学びの道しるべ」で、生徒が流れとポイントをおさえながら道徳的諸価値について考えられるよう工夫されている。 ○実際の行動と結び付けて道徳的諸価値を学べるよう、「やってみよう」を設けている。 	

書名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光村
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業での学びの道すじがわかる「てびき」が各教材に設けられ、めあてによる課題設定により教材を通して何を学ぶのかが意識できる。さらに道徳的諸価値についての理解や自覚を促す発問により、自分に引き付けて考えを深めるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考えよう」に即した発問とは視点を変えた問いである「見方を変えて」を設け、多面的・多角的に考える力を育めるよう配慮されている。巻末に「学びの記録」を設け、自己を見つめ、振り返ることができるよう工夫されている。 ○教材末尾に「つなげよう」が設けられ、日常生活や他教科との関連、関連図書の紹介などが示されており、学んだ道徳的諸価値が他教科や日常生活につながるよう配慮されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」と「情報モラル」について、全学年に主体的・対話的で深い学びを実現するための「深めたいむ」を設け、3年間を通して考えるよう工夫されている。 ○全学年に「生命の尊さ」をテーマとした3教材を掲載して様々な視点で捉える工夫をし、「学びの記録」を巻末に位置付け、変化や成長を振り返る工夫がされている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を織り交ぜ、道徳的諸価値の自覚を深められるように工夫されている。 ○生活実態や発達の段階に合わせて、学年ごとに傾斜をつけ配当し、重点項目は複数教材で扱い、学習経験となるよう配慮されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の第1教材に「道徳の授業を始めよう」を設定し、学年の段階に応じて目的意識をもちながら授業に取り組めるよう工夫されている。 ○各学年に1教材、役割演技への取組が提案されており、演じる側や見る側に意識させたいポイントを示すことで、役割演技の質を高めるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材がテーマをもって配列されていて、関連ある内容項目がまとめて構成されている。読み物教材に加えて、絵本や漫画形式、データや資料を使った教材がある。 ○教材内容の理解を助け、イメージを広げる絵や写真が適所に掲載されている。 ○QRコードが教材タイトルの下にある題材には、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○一枚絵や写真の教材の掲載、UDへの配慮で見やすい紙面への工夫がされている。 ○漢字は、教材初出の固有名詞と小学校配当外の常用漢字全てに振り仮名が付されている。小学校配当外漢字を含む熟語は混ぜ書きを避け、全体に振り仮名が付されている。難解な言葉や必要な情報は脚注で解説されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに教材を分類して現代的課題との関わりが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「てびき」が設定され、学習が深まるよう工夫されている。「広げよう」「深めたいむ」で、授業での学びが日常生活などにつながるよう工夫されている。 ○各学年に1教材、役割演技への取組が提案され、ポイントが示されている。 	

書名 項目	<p style="text-align: center;">中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート</p>	<p style="text-align: center;">1 1 6 日 文</p>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の主題名の明示により、主体的に見通しをもって学習に臨み、自分との関わりで道徳的諸価値の理解ができるよう配慮されている。教材末尾の「考えてみよう」では、ねらいに迫るとともに、様々な視点で考えを深めるよう工夫されている。 ○「学習の進め方」において、写真で対話的・協働的な学習場面が例示され、話合いや考えを深めるための工夫がされている。身近な人物から先人までの悩みや葛藤などの心の揺れや、それを乗り越える強さや気高さなどの多様な生き方が扱われている。 ○教材末尾に授業で学んだことを前向きに自分に生かす問いを設け、道徳性の育成につなげられるよう工夫されている。また、「道徳ノート」には4項目5段階の自分への振り返りがあり、心の成長や変容を実感できる構成になっている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめの未然防止」を重要テーマとし、複数の教材・コラムを組み合わせたユニットを年間に複数配置して、集中的・継続的に考えるよう工夫されている。 ○全学年で「情報モラル」に関わる教材やコラムを掲載し、情報社会の倫理や情報セキュリティに関わる内容について、発達の段階に応じて学習できる工夫がされている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階や学校生活及び他教科の内容や時期との関係、内容項目間の関連を考慮し、複数の教材やコラムがユニット化され年間に複数配置されている。 ○中学校3年間の発達の段階を考慮し、系統的・発展的に学習できるよう1年生では「であう」2年生では「みつめる」3年生では「ひらく」のテーマが設定されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」が別冊になっており、多様な話合いに対応させるため、友達の意見と自分の意見を左右で対比できるよう工夫がなされている。 ○「学習の進め方」では、問題解決的な学習や、道徳的行為に関する体験的な活動の流れが示され、主体的に考えることができるよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材やコラムが学校の行事などと関連付けられ、年間計画に沿うよう配置されている。1時間の学習の流れが可視化され、学び合う場面が工夫されている。 ○教材の内容を理解するために大小様々な写真、挿絵などが掲載されている。 ○QRコードが示されている教材は、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域との連携、デジタル教材や規則的なページ構成、UDへの配慮がある。 ○漢字は、小学校配当外の常用漢字や固有名詞全てに振り仮名が付されている。難解な語句や教材の読み取りに必要な補足については、脚注や側注で必要に応じてイラストや写真を交え解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示され、目次はユニットのテーマが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭と教材末尾で、様々な視点で道徳的諸価値の理解を深め、「道徳ノート」では心の成長や変容を振り返ることができるよう配慮されている。 ○3年間で系統的・発展的な学習になるよう、テーマやユニットが設定されている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>新・中学生の道徳 明日への扉</p>	<p>224 学研</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○巻頭の「考えを深めるための4つのステップ」では具体的な展開例を示し、道徳的諸価値を自分との関わりで理解させる手立てとしている。教材冒頭のキーフレーズは、主体的に向き合い課題を発見し、考えを深めることができるよう工夫されている。 ○視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野で考えられるよう工夫されている。従来の読み物だけではない、絵や写真、図やグラフなどの素材で構成した教材を充実させ、多様な視点から問題意識を喚起する工夫がされている。 ○「クローズアップ」を中心に道徳での学習を日常生活に生かし、道徳性の育成につながるような工夫がされている。また、巻末の「学びの記録」にて自身の成長を振り返り、課題や目標を見付けられるよう配慮されている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「命の教育」を重点テーマとし、「生命の尊重」と「いじめ防止」に関する題材を三つのテーマで取り扱い、各学年において3教材掲載する工夫がされている。 ○「情報モラル」について発達の段階に合わせて各学年2教材を配置している。また、そのうち1教材は共通のイラストを使用し系統的に扱えるよう工夫されている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○同じ内容項目を扱う教材は、内容の深まりや視野の広がりといった学年ごとの工夫がされており、生徒の生活実態や発達の段階に配慮されている。 ○学年ごとに、生徒の発達的特質に応じたテーマを設け、該当項目に複数教材を用意するなど、指導内容の重点化が工夫されている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○生徒が特定の価値観に縛られず、主体的に問題意識をもち、柔軟に考えることができるように教材の冒頭に主題名を記載しない工夫がされている。 ○「深めよう」では、問題解決的な話合いや、役割演技などの手立てが提示され、学習のめあてや流れを理解しやすくするよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○教材ごとに生徒の興味を引くひと言や授業に向き合うためのキーフレーズが記されている。様々な分野で活躍する人物、先人たちに関する教材がある。 ○挿絵や写真、グラフなどを使い、生徒自らの知識や能力を生かす工夫がされている。 ○QRコードが示されている教材には、内容と関連するデジタル教材等が見られるようになっている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○授業のしやすさを考えた流れの見えるページ構成、色やマーク、UDへ配慮がある。 ○漢字は、小学校配当外漢字や教材初出の固有名詞に振り仮名が付され、漢字の学習状況に関わらず、読み進めることができるように配慮されている。教材を読み取るために必要となる言葉や固有名詞は脚注で解説されている。 ○目次と教材は学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。ユニットのテーマは色付けがされている。索引は四つの視点と内容項目で分類し示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○道徳的諸価値を自分との関わりで理解する手立てや、複数の教材を関連付けて多面的・多角的に考え、日常生活に生かし道徳性の育成につながるよう工夫されている。 ○発達の段階を系統的に考え、現代的な課題を議論できる手立てが提示されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>中学生の道徳 中学生の道徳ノート</p>	<p>2 3 2 廣あかつき</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○別冊の「道徳ノート」を併用する構成となり、「道徳ノート」で道徳的諸価値の解説を、教材末尾には内容項目に沿い価値理解を深める名言が提示されている。各教材では「学習の手がかり」の提示により、主体的な学習が促されるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考える・話し合う」で視点の異なる複数の問いを設け、多面的・多角的に考える力が育めるよう配慮されている。「道徳ノート」では教科書の教材と同じ内容項目を扱う資料が配置され、学習がさらに深まるよう工夫されている。 ○教材末尾にて「考えを広げる・深める」の問いを設け、道徳性の育成につなげられるような工夫がされている。また、「道徳ノート」は、授業内容に応じて自分の考えを記述することで、心の成長や変容を実感できる構成になっている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○生命尊重を最重要項目と位置付け、全学年で3教材を掲載して様々な視点から捉える工夫をし、「いじめ防止」では四つの視点から考えを深めるよう工夫されている。 ○「情報モラル」について考えることのできる教材を全学年に掲載し、巻末に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら活用できるよう工夫されている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○学年が進むに従って、価値そのものを深く考え、哲学的に思考することができる教材や問いが精選され、発達の段階に応じて道徳的な思考が深まるよう工夫されている。 ○各学年の掲載教材のバランス等を考慮しつつ、重点と関連の深い内容項目に該当する教材を多く取り上げるなど、指導内容の重点化が工夫されている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○「道徳ノート」には、内容項目ページと学習の記録ページを設け、話合いの記録が取れるようにする等、多様な学習に対応できるよう配慮されている。 ○教材末尾に「考える・話し合う」の欄を設け、生徒が問題解決的な学習や道徳的な行為に関する体験的な学習に見通しをもって取り組めるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○見通しをもって学べるよう、考えたり話し合ったりする手がかりが掲載されている。教材と合わせて、または授業の展開に応じて活用できる補助資料が配置されている。 ○挿絵や写真があり、教材を読み進める上で生徒の思考を促すよう配慮されている。 ○「インターネット」のマークがある題材には、関わりのある補助資料を見られるデジタルコンテンツが用意されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○補助資料やUDでのイラスト配置などを考え、ゆとりある紙面構成がなされている。 ○漢字は、教材初出の固有名詞と小学校配当外の常用漢字全てに振り仮名が付され、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や情報は、脚注で解説されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、道徳ノートのページ数が付されている。巻末には、教材ごとに内容項目が示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「道徳ノート」の併用により、主体的な学習を促し、多面的・多角的に考え、道徳性の育成につなげるとともに、心の成長や変容を実感できるよう工夫されている。 ○他の教育活動との関連で考える現代的な課題や発達の段階に応じ深まる教材がある。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">道徳 中学</h1>	2 3 3 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 科</div>
内 容	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで問題と向き合い、考える経験を積み重ねていくことで授業のねらいを明確にする教材や、自己の判断基準となる価値観形成のために、道徳的諸価値の理解を基に多種多様な生き方と出会うことができる教材づくりが工夫されている。 ○多面的・多角的な見方、考え方ができる教材を掲載し、友達と議論をし、価値観の多様性を受け入れる寛容な心が育めるよう配慮されている。自己を見つめるため、巻末に心の成長を振り返るページが設けられている。 ○教材末尾に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」を設け、自己の生き方を見つめたり、どのように考え行動に移すかなどの道徳的問題を自分のこととして捉えたりすることで、道徳性の育成につなげられるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめを許さない心」の根底にある「生命を尊ぶ態度」について複数教材を配置し、生命尊重への学びを深める多様な教材から、考えが深まるよう工夫されている。 ○「情報モラル」については社会では欠くことのできない情報機器との関わりについての教材を各学年に掲載し、自分ごととして話し合う工夫がされている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生は自己の個性、能力、適正等について、2年生は自己啓発について、3年生は自己実現について、それぞれの道徳的問題に向き合えるよう配慮されている。 ○価値の多様性を受け入れる寛容な心を育む項目は、ワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるように工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に1教材、ワークシートを付けたものがあり、自分の考えと友達の考えを比較することで、議論をしやすくするよう工夫されている。 ○問題解決的な学習や道徳的な行為に関する体験的な学習ができる教材が設定されており、イラストとともに手立てが見やすく提示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が生徒の実態や学校の計画等に沿って教材の配置や順序を変更することができる工夫がされている。同一の登場人物についてのシリーズ教材が掲載されている。 ○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。 ○生徒にとって身近な生活体験や事象だけでなく、様々なジャンルの先人や著名人の生き方を扱った教材が掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の手立てや場面理解を促す資料、魅力ある人物教材やシリーズ教材などがある。 ○漢字は小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞に振り仮名が付されており、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や必要な情報は脚注で必要に応じて写真を交え解説している。 ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色で示されている。目次と索引は、項目ごとに分類され、色で示されている。目次と教材の番号は内容項目に対応させている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的諸価値の理解を基に、自己の生き方を見つめ道徳性を育成するため、友達と議論し多面的・多角的に考え、多様な生き方に出会う教材づくりが工夫されている。 ○発達の段階での連続性や現代的な課題が他領域とつながるよう配慮がなされている。 	

道徳科 調査資料 2

○総ページ数

※「日文」・「廣あかつき」は、道徳ノートが別冊となっている。

※ 目録掲載の
ページ数

学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
1年	196	218	197	198+42	186	186+52	194
2年	204	202	205	198+42	198	170+52	194
3年	204	202	205	198+42	198	166+52	194

○内容項目の配当数

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
自主、自律、 自由と責任	1年	2	2	2	2	2	3	1
	2年	2	1	2	2	2	3	2
	3年	2	2	2	2	2	3	2
節度、節制	1年	2	2	1	1	2	1	1
	2年	2	2	2	1	2	1	1
	3年	2	1	1	1	2	1	1
向上心、 個性の伸長	1年	1	1	1	1	1	1	2
	2年	1	1	2	1	1	1	2
	3年	1	1	2	1	1	1	1
希望と勇気、 克己と強い 意志	1年	1	2	1	1	2	2	1
	2年	1	2	2	1	1	2	1
	3年	1	1	2	1	1	2	2
真理の探究、 創造	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	1	1	2	1	1
思いやり、 感謝	1年	3	3	3	2	2	3	2
	2年	2	3	1	2	2	3	1
	3年	2	1	2	2	3	3	2
礼儀	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
友情、信頼	1年	2	2	2	3	3	2	3
	2年	2	2	2	3	2	2	3
	3年	2	2	1	2	2	2	3
相互理解、 寛容	1年	2	2	2	1	1	1	2
	2年	2	1	2	1	2	1	3
	3年	2	1	3	1	2	1	1
遵法精神、 公德心	1年	2	1	2	2	2	2	3
	2年	2	2	1	2	2	2	2
	3年	2	1	2	2	2	2	2
公正、公平、 社会正義	1年	2	1	2	2	2	2	3
	2年	2	2	2	2	1	2	2
	3年	2	1	2	2	1	2	2

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
社会参画、 公共の精神	1年	2	1	1	2	1	1	3
	2年	2	3	1	2	2	1	2
	3年	2	4	1	3	1	1	2
勤労	1年	2	1	1	2	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	2
	3年	2	1	2	2	1	1	1
家族愛、 家庭生活の 充実	1年	1	1	1	1	1	2	2
	2年	1	1	1	1	1	2	1
	3年	1	1	1	1	1	2	2
よりよい学校 生活、集団 生活の充実	1年	1	1	2	1	2	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
郷土の伝統と文 化の尊重、郷土 を愛する態度	1年	2	4	1	2	1	1	2
	2年	1	2	1	1	1	1	2
	3年	1	2	1	1	1	1	1
我が国の伝統と 文化の尊重、国 を愛する態度	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	2
	3年	1	2	1	2	1	1	2
国際理解、 国際貢献	1年	1	1	1	2	2	1	1
	2年	1	3	2	2	1	1	1
	3年	3	2	1	2	3	1	2
生命の尊さ	1年	4	3	3	3	3	3	2
	2年	4	2	3	3	3	3	2
	3年	4	3	3	3	3	3	3
自然愛護	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	2	1	1	1	1	1
感動、 畏敬の念	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	2	1	1	1	1	1
よりよく生き る喜び	1年	2	2	2	2	2	3	2
	2年	3	1	2	2	2	3	3
	3年	2	2	2	2	2	3	3
※ その他	1年	0	0	2	0	0	0	0
	2年	0	0	2	0	0	0	0
	3年	0	0	2	0	0	0	0

※ 「その他」の数は、内容項目が示されていない教材数を表す。

○教材総数に占める四つの視点ごとの割合

視点	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
教材総数	1年	37	35	35	35	35	35	37
	2年	37	35	35	35	35	35	37
	3年	37	35	35	35	35	35	37
A 主として自分自身に関すること	1年	19%	23%	17%	17%	23%	23%	16%
	2年	19%	20%	26%	17%	23%	23%	19%
	3年	19%	17%	23%	17%	23%	23%	19%
B 主として人との関わりに関すること	1年	22%	23%	23%	20%	20%	20%	22%
	2年	19%	20%	17%	20%	20%	20%	22%
	3年	19%	14%	20%	17%	23%	20%	19%
C 主として集団や社会との関わりに関すること	1年	38%	34%	34%	43%	37%	34%	46%
	2年	38%	46%	31%	43%	34%	34%	41%
	3年	41%	43%	34%	46%	34%	34%	41%
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	1年	22%	20%	20%	20%	20%	23%	16%
	2年	24%	14%	20%	20%	23%	23%	19%
	3年	22%	26%	20%	20%	20%	23%	22%

※ %は、当該学年の教材総数に占める割合を表す。(端数処理のため、合計が100%にならないことがある。また、一つの教材において視点が複数にまたがり両方の視点でカウントしている場合や、教材の内容項目が示されていない場合があるため、合計が100%にならないことがある。)

○各学年で取り上げている題材延べ数に占める題材ごとの割合

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
題材のべ数	1年	111	81	86	57	52	42	44
	2年	106	70	89	68	62	61	43
	3年	95	68	88	74	59	54	38
生命の尊厳	1年	9%	6%	3%	9%	10%	12%	7%
	2年	9%	9%	3%	10%	11%	23%	5%
	3年	8%	9%	3%	8%	8%	22%	8%
社会参画	1年	18%	21%	21%	16%	33%	24%	32%
	2年	24%	29%	17%	19%	18%	10%	21%
	3年	26%	29%	24%	19%	29%	17%	16%

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
自然	1年	12%	7%	3%	5%	6%	5%	9%
	2年	8%	4%	2%	9%	6%	7%	7%
	3年	5%	6%	2%	3%	3%	6%	8%
伝統と文化	1年	6%	9%	8%	11%	4%	5%	5%
	2年	7%	4%	8%	9%	6%	2%	9%
	3年	5%	9%	7%	8%	7%	4%	11%
先人の伝記	1年	1%	4%	3%	4%	4%	5%	11%
	2年	6%	4%	2%	3%	6%	5%	12%
	3年	2%	6%	5%	9%	7%	6%	18%
スポーツ	1年	5%	5%	0%	4%	8%	5%	7%
	2年	8%	4%	3%	4%	6%	10%	14%
	3年	8%	1%	5%	4%	8%	7%	8%
現代的課題 (いじめ)	1年	15%	14%	14%	16%	12%	10%	7%
	2年	10%	16%	16%	12%	10%	7%	0%
	3年	8%	9%	13%	12%	10%	9%	3%
現代的課題 (情報モラル)	1年	1%	2%	2%	5%	6%	7%	5%
	2年	2%	3%	3%	6%	3%	5%	5%
	3年	4%	1%	1%	4%	3%	4%	3%
現代的課題 (消費者教育、 防災教育等)	1年	10%	5%	1%	7%	2%	5%	2%
	2年	5%	7%	1%	4%	5%	5%	2%
	3年	11%	3%	1%	5%	3%	4%	3%
その他 (上記以外)	1年	23%	27%	43%	25%	17%	24%	16%
	2年	22%	20%	44%	24%	27%	28%	26%
	3年	21%	26%	40%	27%	20%	22%	24%

※ %は、当該学年で取り上げている題材延べ数に占める割合を示す。

※ 現代的課題等：いじめ、情報モラル、消費者教育、防災教育、食育、人権、環境など。

第2次答申に係るスケジュール

○令和2年5月27日（水） 埼玉県教科用図書選定審議会より答申（第2次）

○令和2年6月10日（水） 教育委員会定例会にて報告

○令和2年6月10日（水）以降 各市町村教育委員会等へ通知

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（抄）

昭和三十八年法律第百八十二号

第三章 採択

（都道府県の教育委員会の任務）

第十条 都道府県の教育委員会は、当該都道府県内の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択の適正な実施を図るため、義務教育諸学校において使用する教科用図書の研究に關し、計画し、及び実施するとともに、市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う採択に關する事務について、適切な指導、助言又は援助を行わなければならない。

（教科用図書選定審議会）

第十一条 都道府県の教育委員会は、前条の規定により指導、助言又は援助を行なおうとするときは、あらかじめ教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）の意見をきかなければならない。

2 選定審議会は、毎年度、政令で定める期間、都道府県に置く。

（教科用図書の採択）

第十三条 都道府県内の義務教育諸学校（都道府県立の義務教育諸学校を除く。）において使用する教科用図書の採択は、第十条の規定によつて当該都道府県の教育委員会が行なう指導、助言又は援助により、種目（教科用図書の教科ごとに分類された単位をいう。以下同じ。）ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

2 都道府県立の義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択は、あらかじめ選定審議会の意見をきいて、種目ごとに一種の教科用図書について行なうものとする。

（同一教科用図書を採択する期間）

第十四条 義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（抄）

昭和三十九年政令第十四号

（教科用図書選定審議会の設置期間）

第七条 教科用図書選定審議会（以下「選定審議会」という。）を置く期間は、四月一日から八月三十一日までとする。

（選定審議会の所掌事務）

第八条 選定審議会は、都道府県の教育委員会の諮問に應じ、次に掲げる事項を調査審議し、及び必要と認めるときは、これらの事項について都道府県の教育委員会に建議する。

- 一 市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く。）の校長の行う教科用図書の採択に關する事務について都道府県の教育委員会の行う採択基準の作成、選定に必要な資料の作成その他指導、助言又は援助に關する重要事項
- 二 都道府県の設置する義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択に關する事項

（同一教科用図書を採択する期間）

第十五条 法第十四条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間（以下この条において「採択期間」という。）は、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）附則第九条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。

令和2年度埼玉県教科用図書選定審議会に対する諮問事項

- 1 県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択について行う指導、助言又は援助の基本的考え方について

市町村教育委員会等が行う教科用図書の採択に対して、県教育委員会が行う指導、助言又は援助の基本的考え方に関して、どのような点に留意すべきか、答申していただくようお願いするものである。

- 2 県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の基本的考え方について

県立義務教育諸学校で使用する教科用図書採択の基本的考え方について、どのような点に留意すべきか、答申していただくようお願いするものである。

県教育委員会が市町村教育委員会等の教科用図書の採択 について行う指導、助言又は援助の基本的考え方

市町村教育委員会等の行う教科用図書の採択については、教育基本法、学校教育法、小学校・中学校・特別支援学校学習指導要領を踏まえ、関係法令や通知等に基づく公正かつ適正な採択が行われるよう、以下の考え方にに基づき指導、助言又は援助を行う。

1 全般的事項

- (1) 教科用図書の十分な調査研究を行い、関係者がその判断と責任のもと、自らの見識や判断等を基に、慎重かつ十分な協議を重ねることが重要であること。
- (2) 協議に当たっては、児童生徒にとっての教育上の効果及び地域や学校、児童生徒の実態を考慮することが重要であること。
- (3) 県が行う指導、助言又は援助の内容は、市町村教育委員会等の主体性を損なわないように留意することが重要であること。
- (4) 「『質の高い教科書の実現と教科書採択の公正性・透明性を高めるために【ガイドライン】』の周知徹底について（通知）」（平成28年10月21日付け教義指第682号）を踏まえ、教科書採択の公正性・透明性を高めるようにすることが重要であること。

2 資料の作成

採択の対象となる全ての教科用図書について、調査研究を行い、市町村教育委員会等の一般的な指針となるよう配慮しながら作成すること。

3 その他

- (1) 様々な働き掛けにより公正かつ適正な採択に支障を来たすことがないよう、静ひつな環境の確保に努めることが重要であること。
- (2) 教科書採択への疑念を生じさせないよう、会議の公開・議事録の公表を行い、透明性の確保に努めることが重要であること。
- (3) 調査研究において、より広い視野からの意見を反映させるために、保護者等の意見を踏まえることに努めること。

県立義務教育諸学校において使用する教科用図書採択の 基本的考え方

埼玉県立義務教育諸学校において使用する教科用図書の公正かつ適正な採択の確保を図るため、県立義務教育諸学校の教科用図書の採択に当たっては、以下の考え方に基づいて行う。

1 基本的な態度

- (1) 教育基本法、学校教育法、小学校・中学校・特別支援学校学習指導要領、埼玉県5か年計画、埼玉県教育振興基本計画及び埼玉教育の振興に関する大綱の内容を踏まえ、教科用図書を採択する。
- (2) 教科の主たる教材として、児童生徒にとって教育上効果的なものとなるよう、学校の特色や児童生徒の実態に即した教科用図書を採択する。その際、以下の2に示す「基本となる条件」及び3の「調査研究の観点」を踏まえ、教科用図書の十分な調査研究を行う。
- (3) 県立特別支援学校の教科用図書については、児童生徒の障害の状態や教育的ニーズ等を考慮して採択する。

2 基本となる条件

- (1) 組織・配列・分量について
学習指導を進める上で、内容の組織・配列・分量が効果的であること。
- (2) 内容について
 - ア 各教科
 - (ア) 知識及び技能が習得されるようにするための効果的な工夫がなされていること。
 - (イ) 思考力、判断力、表現力等を育成するための効果的な工夫がなされていること。
 - (ウ) 学びに向かう力、人間性等をかん養するための効果的な工夫がなされていること。
 - イ 特別の教科 道徳
 - (ア) 現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での効果的な工夫がなされていること。
 - (イ) 発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成するための効果的な工夫がなされていること。
 - (ウ) 「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する効果的な工夫がなされていること。
- (3) 学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について
学習指導要領の教科の目標を達成するための効果的な工夫がなされていること。
- (4) 資料について
地図・挿絵・写真・図表・数表・索引等が必要に応じて用意され、児童生徒に理解しやすいものであること。
- (5) 表記・表現について
 - ア 記号・用語・単位等が、児童生徒に理解しやすいものであること。
 - イ 表現が明確で、児童生徒に理解しやすいものであること。

3 調査研究の観点

- (1) 学校の教育目標の達成に向け、適切であること。
- (2) 学校の特色、児童生徒の実態及び保護者等の意見を踏まえたものであること。
- (3) 児童生徒の生活、経験及び興味・関心等に対する配慮がなされていること。